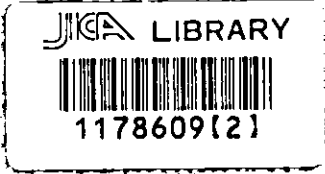


バングラデシュ人民共和国
観光開発プロジェクト形成調査
報告書

平成16年12月
(2004年)



独立行政法人 国際協力機構
アジア第二部

地 二
JR
04-14

JICA
101
75.9
2Rk
IBRARY

**バングラデシュ人民共和国
観光開発プロジェクト形成調査
報告書**

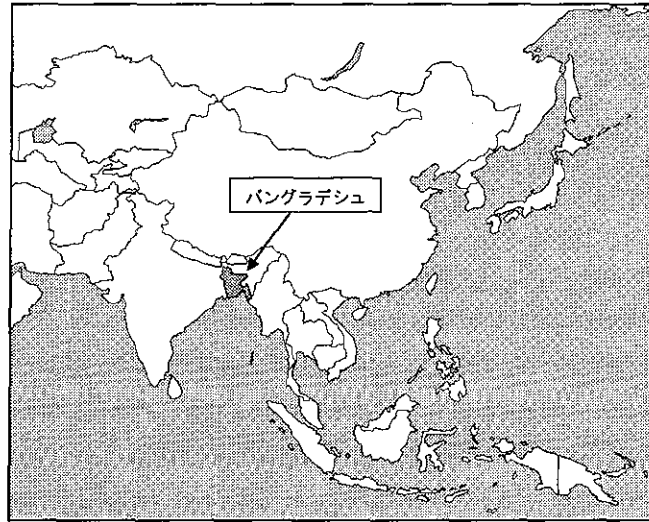
**平成16年12月
(2004年)**

**独立行政法人 国際協力機構
アジア第二部**

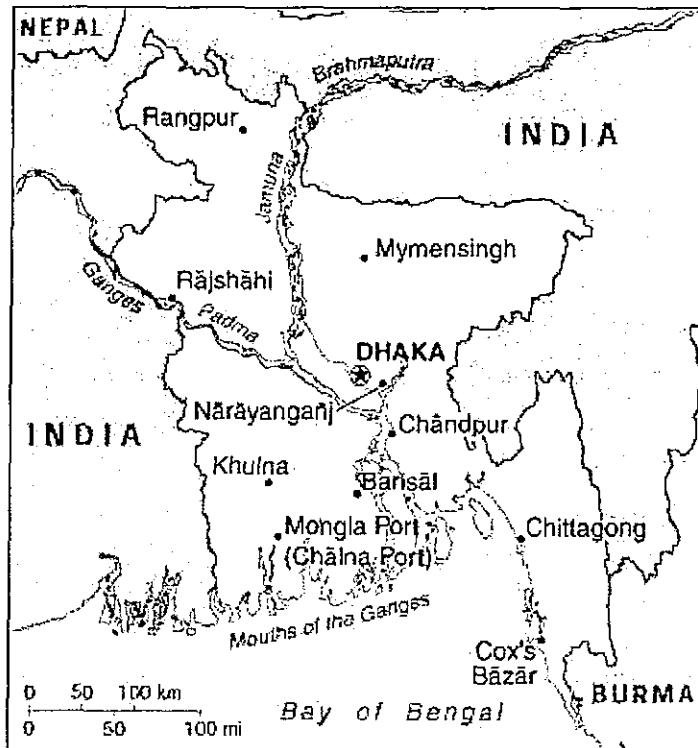


1178609【2】

バングラデシュ位置図



バングラデシュ地図



目 次

地 図

第1章 調査実施の背景等	1
1-1 調査実施の背景	1
1-2 調査の基本方針	1
1-3 調査内容	1
1-4 調査団員	2
1-5 調査日程	2
第2章 国家政策上の観光開発の位置づけ	3
2-1 既存マスタープランのレビュー	3
2-2 観光開発政策と実施状況	4
第3章 観光開発に係る政府のキャパシティー	7
3-1 組織・体制	7
3-1-1 政府	7
3-1-2 民間	10
3-2 民間航空・観光省予算	11
第4章 観光業の現状	12
4-1 外国人渡航者数と観光外貨収入の動向	12
4-2 国内観光客の動向	14
4-3 交通手段、宿泊施設、レストラン等の現状	14
4-4 旅行代理店の数および提供サービスの内容	15
第5章 観光資源の開発ポテンシャル	16
5-1 主要観光資源	16
第6章 日本におけるバングラデシュ対象観光業の現況	25
6-1 旅行会社	25
6-2 ガイドブック出版社	25
第7章 国際協力の現状	26
7-1 South Asian Sub-regional Economic Cooperation (SASEC)	26
7-2 Bay of Bengal Initiative for Multi Sectoral Technical and Economic Cooperation (BIMSTEC)	26

第8章	バングラデシュ観光開発の今後の課題	27
8-1	現状の問題分析の実施	27
8-2	観光資源インベントリー調査の必要性	27
8-3	マーケット・セグメンテーションの明確化 (国際観光市場と国内観光市場の区別)	27
8-4	観光振興に対する政府の積極的コミットメントの必要性	27
8-5	観光振興に対する政府組織強化と関係機関の協調体制の構築の必要性	27
8-6	観光関連インフラ整備とサービス水準の向上	28
8-7	民間セクターの観光投資支援策強化の必要性	28
8-8	観光振興マーケティング戦略と活動強化の必要性	28
第9章	今後の協力の妥当性および協力範囲の検討	30
9-1	マスタープラン策定の必要性	30
9-2	専門家派遣	31
9-3	その他の協力可能範囲	32
付属資料		
1.	調査スケジュール	35
2.	主要面談者リスト	36
3.	英文要約	37
4.	National Tourism Policy,1992	41

第1章 調査実施の背景等

1-1 調査実施の背景

バングラデシュ人民共和国（以下、「バングラデシュ」と記す）には、世界遺産に登録されている文化・自然環境であるバゲルハットのモスク都市、パハルプールの仏教寺院遺跡、シュンドルボン等の観光資源が存在している。バングラデシュは、1988年に世界観光機関（World Tourism Organization: WTO）およびUNDPの支援を得て策定した観光開発マスタープラン（Strategic Master Plan for Tourism Bangladesh, Project Findings and Recommendations 1988）を有しているが、既存の観光地の有効活用や自然環境の保全、外国人観光客誘致に向けた市場開拓等における戦略性が不十分であり、かかる観光資源が有効活用されていない状況にある。

バングラデシュ政府は観光開発の重要性を認識しており、1999年の産業指針において観光業振興を位置づけ、さらに現在策定中のPRSPに観光振興を盛り込むべく準備中である。

観光開発は投資促進、外貨収入の増加、雇用機会の創出という効果をもたらし、バングラデシュにおける我が国の援助重点分野の一つである「投資促進・輸出振興のための基盤整備」に資することから支援の必要性があると認められる。しかし、支援の実施に際し、バングラデシュ政府による取り組みの状況等明らかにすべき事項が多くあることから、現行の観光マスタープランをはじめとする既存政策のレビューを行うとともに観光資源のポテンシャル等について情報を収集かつ分析し、同分野における我が国の協力のあり方について検討する必要がある。このため、本プロジェクト形成調査を実施した。

1-2 調査の基本方針

調査にあたっては、以下の基本方針に基づき実施した。

- (1) 観光資源のポテンシャル、観光業に関わるソフト面およびインフラ等の整備状況、関連政府機関の人員、予算体制等を調査し、バングラデシュ観光開発における現状の問題点、開発課題および開発の可能性を抽出する。
- (2) 平成15年度にバングラデシュ側から要請のあった開発調査「観光開発マスタープラン策定」を含め、今後の観光開発分野における我が国の協力の方向性について検討を行う。
- (3) 調査の全般を通じて現地ODAタスクフォース関係者、特に「民間セクター開発」セクター・ワーキング・グループのメンバーと十分に意見交換を行う。

1-3 調査内容

以下の内容について調査、検討を行い、結果を第2章～第9章に取りまとめた。

- (1) バングラデシュの国家政策上の観光開発の位置づけ、観光開発戦略の内容および実施状況
- (2) 観光開発・振興に関わる政府機関のキャパシティー（人員、スタッフの能力、予算、組織および制度の整備状況等）および課題

(3) バングラデシュの観光業に係る現状

- ・外国人旅行者数、観光外貨収入
- ・国内旅行者の動向
- ・交通手段、宿泊施設、レストラン等の整備状況
- ・旅行代理店の数および提供サービスの内容等

(4) 観光資源のポテンシャル

- ・文化・歴史資源
- ・自然資源
- ・観光施設
- ・土産品等

(5) 日本におけるバングラデシュ対象観光業の現況（旅行会社、ガイドブック出版社等へのヒアリング）

(6) バングラデシュ観光開発分野における他ドナーの動向

(7) バングラデシュ観光開発の課題

(8) 今後の協力の妥当性および可能性

1-4 調査団員

ニッセイ基礎研究所社会研究部門 研究理事 ^{おさだ}長田 ^{まもる}守

なお、2004年9月27～29日の在バングラデシュ日本大使館、JICAバングラデシュ事務所、観光省等との協議には以下のものが同行した。

JICAアジア第二部南西アジアチーム 内田 淳

1-5 調査日程

(1) 調査期間

2004年9月26日から11月12日（48日間）

(2) 詳細スケジュールおよび面談者

付属資料1および2のとおり。

第2章 国家政策上の観光開発の位置づけ

2-1 既存マスタープランのレビュー

(1) 1988年に策定された観光開発マスタープランは、WTO (World Tourism Organization)、UNDPの援助により、英国のコンサルタントPannel Kerr Forster Associatesによって作成されたものである。作業チームは10名で構成され、そのうち8名が1987年9月から12月までと1988年4月にバングラデシュを訪問し、取りまとめたものである。チームは、総括、副総括、ホテル開発、市場分析、計画/建築、野生生物、インフラ担当のコンサルタント等から構成されていた。

策定目標は、①短期のプロジェクトも含む10年間の長期計画を策定すること、②国際レベルおよび国内レベルの観光資源を評価し、その特性に合った開発方向を明らかにし、短期的に外貨収入を増加し得る開発ターゲットを明らかにすること、③既存のホテル、観光資源、インフラ、サービスを活かし、新規に投資するものとの統合を目指した計画の策定、④観光マーケティングと観光振興のガイドライン策定および観光開発に必要な組織・制度強化、法令整備等の提言であった。

現状分析として、自然・地理条件、観光資源（遺跡、歴史的建造物、記念碑、野生動植物、祭り・工芸等の民俗文化、スポーツ・レクリエーション活動/施設、飲食等）、インフラ、宿泊施設、観光関連セクター（行政機関、旅行エージェント、観光商品、土産物産業、医療・衛生、出入国手続き制度等）、市場分析、観光開発関連組織制度・法律整備の現状と問題点を整理している。

全国を6地区（ダッカ、コックスバザール、チッタゴン丘陵、シュンドルボン、ラジシャヒ、シレット/モウロビ・バザール）に分け、各地域の開発戦略を提言している。

(2) マスタープランは策定年次が1988年と古く、計画としては既に役目を終えているものであるが、その内容について以下の問題点を指摘することができる。

- 1) 作業期間が短く（8名のコンサルタントチームのバングラデシュ滞在は54日間との記述が文中にある）、分析は一応基本的な項目は取り扱っているが、定性的な分析が主で、提言は抽象的で具体性に欠ける。問題点の指摘は他の途上国においても見られる一般的なものが多く、問題分析が不十分である。したがって、個々の問題の連関、因果関係が必ずしも明確に把握されていない。
- 2) 観光開発の基礎となる観光資源インベントリ調査、動植物インベントリ調査が不十分である。行われたのは資源等のリストアップと定性的評価のみである。
- 3) 市場分析も行われているが、現在はアジア諸国（日本、韓国、中国、アセアン）の観光客は増大しており、1980年代当時とは市場の状況が異なる。また、既存マスタープランはヨーロッパ市場の分析が主で、アジア諸国の分析が不十分である。
- 4) 周遊観光ルートの提案もあるが、分析が十分とはいえない。近隣諸国（インド、ネパール、ブータン等）との国際的連携ルート等も含め、さらに検討する必要がある。
- 5) 観光開発戦略と10カ年開発計画が示されているが、羅列的でアクションプランがない。したがって、優先プロジェクト、実施順序、実行予算の手当て等が明確でない。

以上の問題点を指摘し得るが、具体的な観光関連プログラム、プロジェクトを推進するためのマスタープランとしては、具体的な実施プロセス、道順が明示されておらず、マスタープランというよりも、政策ガイドラインといった性格が強い。観光は関連政府セクター、関連産業分野が多く、それら多様な分野の基盤と総合力、そして分野間の協力と調整があつて、初めて円滑に発展させることができるが、既存マスタープランはその点の分析が不十分であり、マスタープランとしてはその役割を十分に発揮するには不十分な内容であった。

2-2 観光開発政策と実施状況

現在の観光行政は、原則として1992年の国家観光政策（National Tourism Policy）に基づくものとされているが、体系的に実施されているわけではない。政権の交代等もあり、継続性、一貫性がないのが現状である。

国家観光政策においては、以下の方針が決定されている。

- ・観光を振興するために、より低コストの観光施設を整備する。
- ・観光資源の開発、保存、管理を実施する。
- ・貧困削減のためにより多くの雇用を創出する。
- ・バングラデシュの魅力あるイメージを海外に広める。
- ・民間資本の魅力ある投資対象分野として観光セクターの認知度を高める。
- ・外国人旅行者、国内旅行者のためのレクリエーション施設を整備する。
- ・民芸品・工芸品産業を振興し、文化と伝統を育むことを通して国民の連帯意識を形成する。

さらに、以上の方針を受けて次の具体的戦略が打ち出された。

- ・観光が産業として国民の間に広く認知されるために、観光産業の持つ社会経済的価値をラジオ、テレビ、新聞等のメディアを使って広く広報する。
- ・観光分野の商業活動からは政府は徐々に手を引き、民間セクターへ移管していく。
- ・政府の観光振興のための広報活動予算を増額し、観光公社を通して国内および国際広報活動を積極的に行う。
- ・観光産業への民間投資を奨励するために、ホテルおよび他の観光関連のサービス部門を産業セクターとして認知する。このセクターを育成するために、優遇金利、また水、ガス、電気等の優遇料金を検討する。
- ・民間の観光投資を奨励するために、認可を受けた開発プロジェクトに対し政府保有の土地の長期リースを行う。
- ・15人から20人乗りの空調付き観光バス、もしくは観光船の輸入に際しては、現在国家歳入庁（National Board of Revenue）が決めしている輸入関税の分割払いを認め負担軽減を図る。しかし、この措置に基づき輸入したバス、船は観光客用以外に使用することはできない。
- ・外国人専用の特別観光地区を設定する。宿泊・飲食サービス、スポーツ・レクリエーション・エンターテインメント施設を整備するために、必要品の輸入を認める。この地区内では、外国人観光客はすべて外貨で決済しなくてはならない。クアカタ地区、コックスバザールのシヨナディア島等が候補地である。
- ・国家開発5カ年計画、年度計画において観光開発を重要課題として位置づける。

以上であるが、現在までに個別的な対応がなされてきており、業務の民営化などは一部進展しているが、特に民間航空・観光省の権限のみでは対応のできない分野、すなわち他の関連機関との協調・調整を必要とする分野・課題はほとんど実現していない。

また、1999年の産業政策（Industrial Policy of 1999）において、観光は推進産業セクター（Thrust Sector）として位置づけられ、安定的かつ持続的な成長が期待されているが、ホテル建設等への外国投資は政府が期待するほどの成果を上げないまま今日に至っている。

現在、観光開発政策の見直し、改訂作業が行われており、2005年度「Bangladesh Tourism Vision 2020」として新たに承認を目指している。基本的な理念の一つとして、民間セクターの積極的参加と政府による支援が検討されている。予定されるマスタープラン改訂もこの改訂と整合性を取って進められることになる。

従前、観光開発の政策プライオリティは低かったが、近隣諸国の到着外国人旅行者客数（2000年世界観光機関データ）が、インド264万人、ネパール46万人、スリランカ40万人、モルディブ47万人と、バングラデシュ（2000年19.9万人、バングラデシュ移民局データ）を大きく上回る現状を踏まえ、現政権においては徐々に観光セクターの持つ経済効果の重要性（雇用効果等）の認識が高まりつつあり、観光開発によって外国人旅行者および外貨収入の一層の拡大、関連産業の振興を図ろうという機運が強まっている。その一環として、現在策定中のPRSPにおいても、観光開発プログラム・プロジェクトを組み入れる方向で検討が進められている。PRSPのStudy Report（Thematic Group-3）では、貧困削減、経済・社会開発推進のために以下の提言がなされている。

- ・バングラデシュの魅力的な自然は、観光開発を通して多くの人々にとって身近なものにすべきである。
- ・観光開発は貧困層・女性の雇用および所得を向上させる。
- ・現在ある民芸品、工芸品は、観光客の増大によってより普及する。
- ・バングラデシュの豊かな文化、宗教文化は観光によって広く海外においても共有されていく。

なお、エコツーリズム開発と運営に関して取り決めた法律は現状では特にないが、1992年の国家環境政策の中に取り上げられている。この1992年の環境政策を受けて、1995年に環境保護法が制定された。その後、1996年以降、政府は11のエコパークを設置し、その一環としてクアカタ、コックスバザール、シュンドルボンを観光占有地区（Exclusive Tourist Zone：外国人観光客専用の観光地区を建設するという構想であるが、まだ実現していない）として宣言し、またシュンドルボン生物多様性保全プロジェクト（Sunderban Biodiversity Conservation Project）およびシュンドルボン保全林エコツーリズム管理計画（Ecotourism Management Plan for the Sundarban Reserve Forest）、統合沿岸地区管理計画（Integrated Coastal Zone Management Plan：ICZMP）を環境・森林省（Ministry of Environment and Forest）が手掛けている。

シュンドルボン生物多様性保全プロジェクトは、アジア開発銀行、地球環境ファシリティ（Global Environment Facility：GEF）、オランダ政府の技術協力および資金協力プロジェクトで、予算総額は77.7百万US\$である。まずADBによって、1998年11月にローン37百万US\$の認可がなされ、実施期間1999年8月から2006年12月までの予定で事業が始められた。目的はシュンドルボン地区の生物多様性保全のための持続的、かつ住民参加型保全システムを構築し、環境保全と周辺地区に住む350万人の住民の貧困削減を図ることであった。

しかし、現在は不適切な資金管理等もあり、プロジェクトの遂行は予定通り進んでいない。2003年6月時点で、資金の23%のみが消化された状態である。2003年9月に事業の見直しをADBは決定している。

エコツーリズム管理計画は、上述の生物多様性保全プロジェクトの一環として位置づけられるものである。シュンドルボン地区の環境保全を図りながらエコツーリズムを振興し、住民の雇用および所得の増加を図り、合わせて環境意識の高揚を目的とするものである。2002年5月にオランダ（ARCADIS Euroconsult）と米国（Winrock International）のコンサルタントによって調査レポートが提出されている。

統合沿岸地区管理計画の一環として、現在UNDPの技術協力によって「Coastal and Wetland Biodiversity Management at Cox's Bazar and Hakaluki Haor」プロジェクトが実施されている。このプロジェクトは、バングラデシュの生態系重要地域（Ecologically Critical Area）の革新的な環境管理システムを確立し広くその意義を広めることを目的とするものである。

具体的には、コックスバザールおよびハクル・ハオルの湿地帯の生物多様性の保全とその持続的な利用を行うことと、環境局がこれらの事例を通して、生態系重要地域の環境管理手法の制度化を促進することを目指している。プロジェクトは2000年7月から開始され、2007年6月完了予定である。予算は5.52百万US\$である。

第3章 観光開発に係る政府のキャパシティー

3-1 組織・体制

3-1-1 政府

民間航空・観光省（Ministry of Civil Aviation and Tourism）が観光開発の主務官庁であり、Joint Secretaryの監督下にあるバングラデシュ観光公社（Bangladesh Parjatan Corporation : BPC）が観光開発の実施機関である（それぞれの組織図は図3-1および図3-2のとおり）。これは1972年の大統領令、バングラデシュ観光公社令（The Bangladesh Parjatan Corporation Order）に基づき設立された組織である。

BPCは計画局、商務局、財務局の3部局から構成され、計画局は観光振興計画、観光人材養成、観光統計を担当し、商務局は管轄下のホテル、レストランの運営管理、財務局は予算、財務管理、および免税店の運営管理を担当している。現在の職員数は、全国で877人である。なお、管轄下のホテル、レストランは民営化が進められており、既にコックスバザールの3つのホテル、シレットのホテル、レストラン2軒、および遊休地等が民間業者へ経営移管されている。

関係機関の調整組織として、①関係閣僚レベル、②関係省庁レベル、③民間航空・観光省レベルの組織がある。

(1) 関係閣僚レベル

「Cabinet Committee of Tourism」

1992年のTourism Development Policyで設置することが謳われたNational Tourism Councilが、前政権時代2000年5月に唯一の会合を開いたのみで休眠状態にあるため、実質的にそれに代わる組織として現政権が2004年8月に発足させたものである。Minister of Health and Family Planningが議長を務め、その他関連9省庁（Communication、Environment and Forest、Water Transport、Housing and Public Works、Foreign Affairs、Civil Aviation and Tourism、Cultural Affairs、Homes、Land）の大臣がメンバーを構成している。

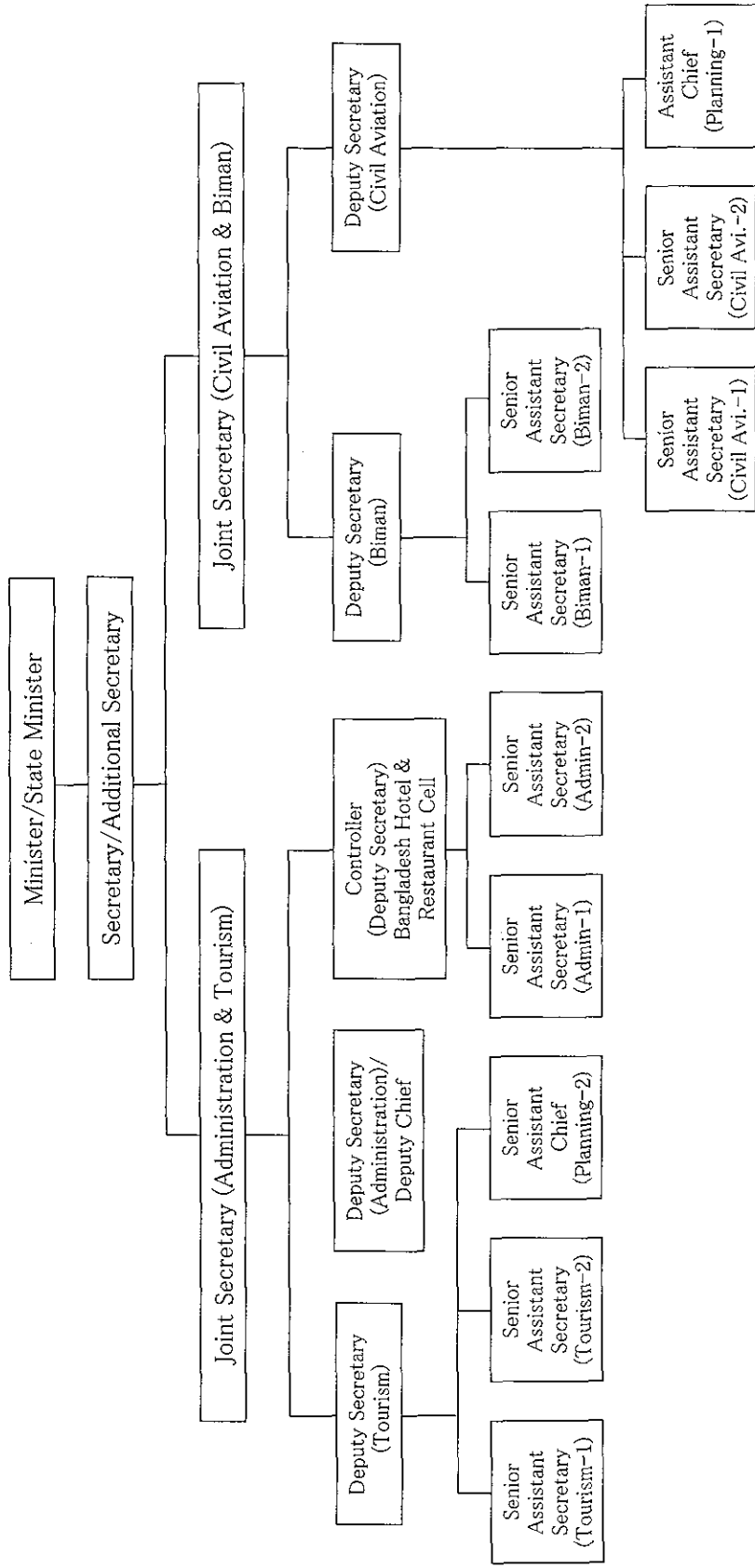
この委員会を補佐するメンバーとして関連8省庁（Planning、Homes、Finance、Environment and Forest、Housing and Public Works、Civil Aviation and Tourism、Communication、Water Transport）の次官が指名されている。会合は年2回のペースで開催されることになっている。

なおバングラデシュ政府関係者によれば、Minister of Health and Family Planningが議長を務める理由は、閣内ではSenior Minister（上級大臣）であり、State Minister（国務大臣）である民間航空・観光大臣よりも、発言力・影響力があるからとのことである。

(2) 関係省庁レベル

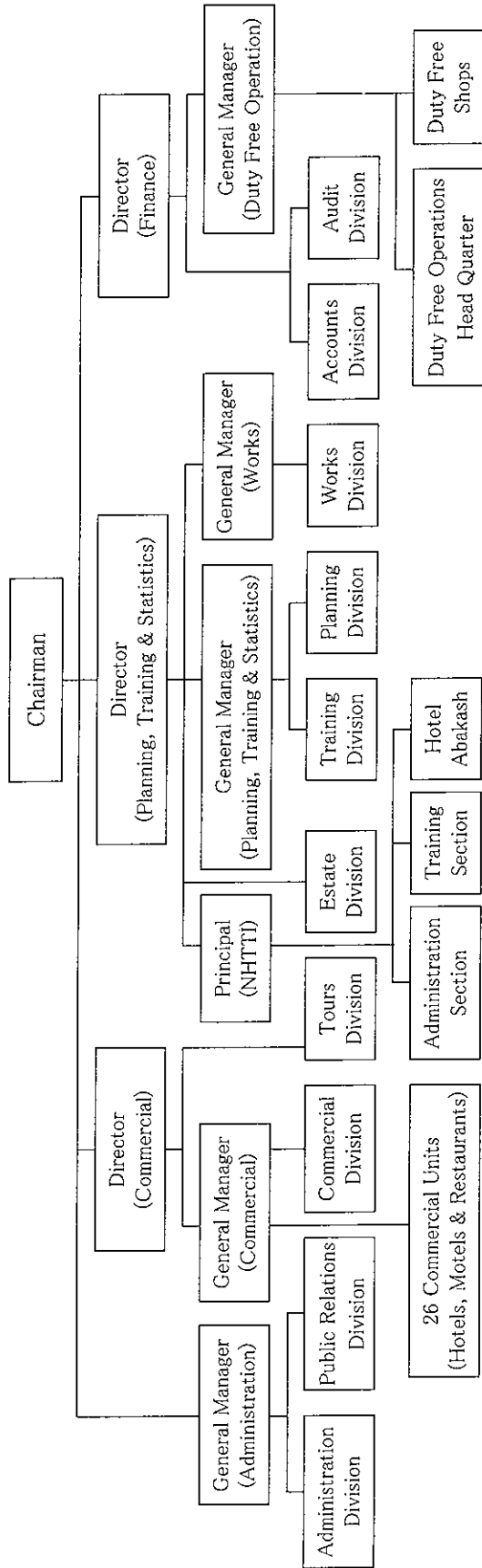
「National Tourism Advisory Committee」

民間航空・観光大臣が議長を務める委員会で、関係省庁次官〔Civil Aviation and Tourism、Board of Investment、Communication（Road and Railways担当次官）、Environment and Forest、Cultural Affairs、Local Government and Rural Development、Homes、Information、BPC〕および以下の民間関連団体代表者と学識経験者がメンバーとなっている。1990年代末に組織されたが、2003年5月より会合を開催している。



出所：民間航空・観光省

図 3 - 1 民間航空・観光省組織図



出所：BPC

図 3-2 バングラデシュ観光公社 (Bangladesh Parjatan Corporation) 組織図

商工会議所 (Federation of Bangladesh Chambers of Commerce & Industry : FBCCI)、旅行代理店協会 (Association of Travel Agents of Bangladesh : ATAB)、旅行企画会社協会 (Tour Operators Association of Bangladesh : TOAB)、観光開発業協会 (Tourism Developers Association of Bangladesh : TDAB)、大洋・アジア旅行協会バングラデシュ支部 Bangladesh Chapter (Pacific Asia Travel Association : PATA)、ショナルガオン・ホテル (Hotel Sonargaon)、ダッカ・シェラトン・ホテル (Hotel Dhaka Sheraton)、ラシダル・ハッサン教授 (Prof. Syd. Rashidul Hassan, Dhaka University)、アブ・アーメッド教授 (Prof. Abu Ahmed, Dhaka University)、モハマド・ラキブ・シッディキ編集長 (Mr. Mohammad Raquib Siddiqui, Chief Editor, Bangladesh Monitor)、その他、その都度呼ばれる3人の観光事業者 (Three other significant tourism entrepreneurs)。

(3) 民間航空・観光省レベル

「Tourism Subcommittee」

民間航空・観光省が運営する組織で、省関係者と民間関連団体の代表者14人から構成される委員会である。1970年代より組織され、月1回のペースで会合を持ち、情報交換、民間から政府への要望事項等を討議している。議長は民間航空・観光省の観光担当 Joint Secretary が務め、その他のメンバーは以下の13人である。

ビーマン航空 Managing Director、バングラデシュ観光公社 Chairman、TOAB 会長、ATAB 会長、PATA バングラデシュ支部会長、バングラデシュ国際ホテル協会会長 (International Hotels Association of Bangladesh : INHAB)、Hotel International Limited 会長、Bangladesh Service Limited, Secretary、ショナルガオン・ホテル Managing Director、ダッカ・シェラトン・ホテル Managing Director、TDAB 会長、Bangladesh Hotels and Guest House Owners Association 会長、民間航空・観光省の観光担当 Deputy Secretary (事務局担当)。

3-1-2 民間

バングラデシュの観光業界は大別して、旅行企画・運営会社 (Tour Operator)、旅行チケット手配・発券、渡航手続き代理業を主に手掛ける旅行代理店 (Travel Agent)、宿泊施設業 (ホテル・ゲストハウス)、観光開発および関連会社 (不動産ディベロッパー、レストラン、レンタカー会社、両替商等) がある。

これらの観光関連民間会社は業界団体を組織しており、主なものとして、① Tour Operators Association of Bangladesh (TOAB)、② Association of Travel Agents of Bangladesh (ATAB)、③ Bangladesh Hotel & Guest House Owners Association、④ Tourism Developers Association of Bangladesh (TDAB) がある。上記4団体のうち、ATABは商業省の登録団体であるが、他は未登録である。

TOABには現在42社が登録しているが、主に中東等へ出掛ける海外出稼ぎ労働者向けの業務を行うものが大半で、海外旅行者受入れを主要業務にしているのは6社程度である。その多くは1990年代に開業し、近年は日本の大手旅行代理店との取引関係も持ち、日本からのグループ・ツアー業務等も積極的に行っている。

次にATABによれば、Travel Agentとして政府に登録している業者は現在1,300社以上あり、そのうち1,000社以上がATABに加盟しているとのことである。ATAB加盟会社の主要業務は、

TOAB加盟の会社とは性格が異なり、旅行関連チケット手配・発券、渡航手続き代理業務が中心であり、国際観光業務・グループ・ツアー等の取り扱いはしていない。

なお、TDABは多様な業種（レストラン、ホテル、レンタカー、両替商等）が参加する団体であるが、その活動はあまり活発ではないとのことである。

概して、TOABをはじめ民間セクターの観光開発に対する意欲は大変旺盛で、自らクルーズ船を建造し、シュンドルボン等を周遊する旅行商品開発に取り組むなど、グループ・ツアー、パッケージ・ツアー開発に取り組んでいる。また、主に国内観光客向けのテーマ・パーク等（ダッカ、チッタゴン）の建設も行われている。チッタゴンのケース（フォイズ湖、アドベンチャーランド）では鉄道省が保有地を民間にリースし、BOTスキームによって大手民間ディベロッパーが建設を進めている。

観光開発は関連セクターが多く、その連携に基づく総合力が求められるが、関係者のヒヤリングによると、現状では特に政府関係機関の連携は十分でなく、円滑な観光開発を進めるには推進体制の見直しと強化が不可欠と考えられる。特に、バングラデシュの観光開発にとって重要分野であるエコツーリズムは、大統領令により環境・森林省森林局の担当とされているため、BPCをはじめとして、民間航空・観光省は計画策定および開発の権限を持たない。総合的な観光開発を進めるための権限と機能が一元化されていない現状は再検討されるべきである。

3-2 民間航空・観光省予算

民間航空・観光省の経常予算と開発予算の近年の推移は表3-1のとおりである。経常予算は人件費、施設維持管理費等である。開発予算は省の各部門が開発案件に用いるものである。なお、経常予算には、観光公社、ビーマン航空、バングラデシュ航空局の経常費は含まない。これら3組織は独立組織であり、独自の経常予算を持つ。しかし、開発予算に関しては省予算から一部支出されることもある。開発予算の年度ごとのばらつきの原因は不明である。また、BPCの予算データは今回入手することができなかった。

表3-1 民間航空・観光省予算の推移
(million Taka)

年 度	経常予算	開発予算
2004/2005	15.68	955.00
2003/2004	15.26	214.80
2002/2003	18.54	522.07
2001/2002	14.46	1,308.80
2000/2001	15.33	2,297.58

出所：民間航空・観光省

第4章 観光業の現状

4-1 外国人渡航者数と観光外貨収入の動向

最近10年間の外国人渡航者数は、伸び率にばらつきがあるものの、1998年を除き連続して増加している。また、観光外貨収入は1998、1999、2003年を除き順調に増加を示している。2003年の数字を1994年に比べると、外国人渡航者数は1.7倍、観光外貨収入（名目値）は4.36倍増加している。インフレ率（約1.61倍）を考慮しても約2.6倍の増加である。BPCの説明によれば米ドルとバングラデシュ・タカの交換レートがドル高に振れていることも、タカ・ベースの観光収入の伸び率が高い理由の一つということである。

観光外貨収入は大別して業務旅行収入と個人旅行収入に分かれており、2001年のデータによれば両者の比率は、業務旅行3.1%（83.2mil. Taka）、個人旅行96.9%（2,570.6mil. Taka）と圧倒的に個人旅行のシェアが高い。また、個人旅行の中の観光客（Tourist）からの収入は2,264.1mil. Taka（85.3%）である。なお、これは中央銀行（Bangladesh Bank）のデータであるが、旅行者によって外貨交換された金額とのことである。

表4-1 外国人渡航者数と観光外貨収入の動向

年	外国人旅行者数 対前年変化率	観光収入(mil. Taka) 対前年変化率
1994	140,122 -	759 -
1995	156,230 11.5%	955 25.8%
1996	165,887 6.2%	1,401 46.7%
1997	182,420 10.0%	2,741 95.6%
1998	171,961 -5.7%	2,455 -10.5%
1999	172,781 0.5%	2,452 -0.1%
2000	199,211 15.3%	2,627 7.1%
2001	207,199 4.0%	2,654 1.0%
2002	207,246 0.0%	3,313 24.8%
2003	244,509 18.0%	3,310 -0.1%

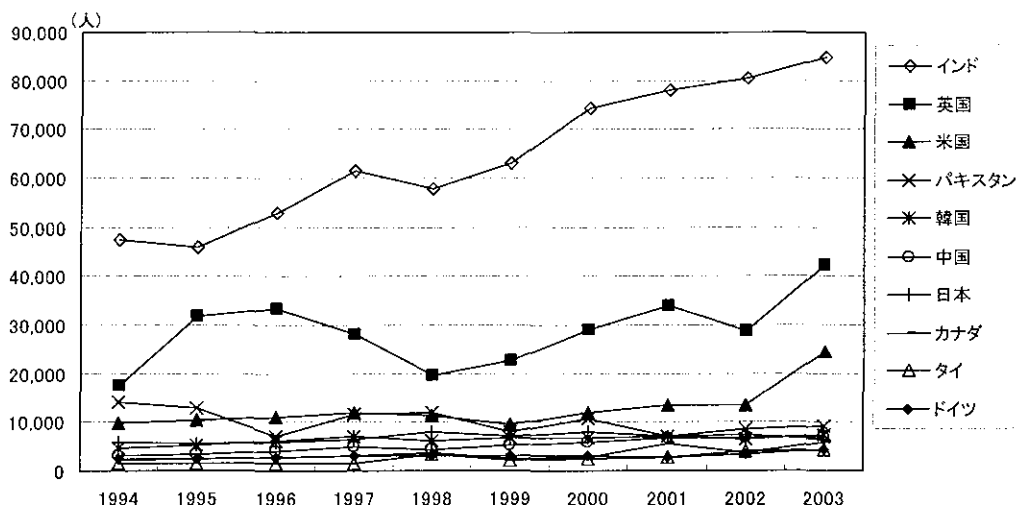
出所：Immigration Authority, Bangladesh Bank

国籍別渡航者数を見ると、2003年はインド、英国、米国、パキスタンの順である。過去10年間を見ると米国とパキスタンの順位が逆転しているが、上位4カ国の顔ぶれには変化がない。日本は1994年の5位から、2003年には7位に順位を下げている。代わって韓国、中国が徐々に順位を上げてきている。

表4-2 国籍別外国人渡航者数上位10カ国

年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
インド	47,349	46,015	53,007	61,606	57,937	62,935	74,268	78,090	80,415	84,704
英国	17,332	31,984	33,463	28,115	19,605	22,510	29,106	34,087	28,905	42,138
米国	9,735	10,541	11,033	12,070	11,358	9,557	11,924	13,394	13,622	24,458
パキスタン	14,194	12,903	7,070	11,481	12,087	7,894	10,637	7,010	8,703	9,238
韓国	4,635	5,251	6,017	6,923	6,154	6,596	6,746	6,896	6,511	7,465
中国	2,936	3,408	4,016	4,869	4,379	5,208	5,901	6,867	6,681	7,021
日本	5,749	5,600	5,716	6,482	7,808	7,055	8,006	7,090	7,325	6,523
カナダ	2,111	2,325	2,696	3,053	3,815	2,461	2,723	5,484	3,606	5,847
タイ	1,486	1,519	1,522	1,645	3,215	2,159	2,492	2,881	3,997	4,188
ドイツ	2,485	2,460	2,708	3,111	2,986	2,947	3,080	2,635	3,297	4,184

出所：Immigration Authority



出所：Immigration Authority

図 4-1 国籍別外国人渡航者数上位10カ国

次に、訪問目的別外国人渡航者数の動向を見ると、観光目的渡航者数は1999年の4.9万人がピークであるが、一時減少のあと、2001年より増加に転じている。全体に占める観光目的の比率は17.8%~28.6%とばらつきを示し傾向がはっきりしないが、これは母数が小さいことの影響と考えられる。BPCによれば、その他目的の中には、観光を含む複数の目的（知人・友人訪問等）を持つ場合もあり、観光客の数は、実際はもっと多いと考えられるとのことである。

表 4-3 訪問目的別外国人渡航者数

年	観光	業務	公用	就学	宗教	その他
1999	49,370	22,633	13,489	1,358	562	85,369
2000	41,015	25,177	15,179	1,585	862	115,393
2001	38,448	25,956	8,176	1,297	538	132,784
2002	41,442	23,848	5,658	1,438	497	134,363
2003	43,418	25,863	7,609	1,623	1,068	164,928

出所：Immigration Authority

表 4-4 訪問目的別外国人渡航者構成比率

年	観光	業務	公用	就学	宗教	その他
1999	28.6%	13.1%	7.8%	0.8%	0.3%	49.4%
2000	20.6%	12.6%	7.6%	0.8%	0.4%	57.9%
2001	18.6%	12.5%	3.9%	0.6%	0.3%	64.1%
2002	20.0%	11.5%	2.7%	0.7%	0.2%	64.8%
2003	17.8%	10.6%	3.1%	0.7%	0.4%	67.5%

出所：Immigration Authority

表 4-5 訪問目的別外国人渡航者数対前年変化率

年	観光	業務	公用	就学	宗教	その他
2000	-17%	11%	13%	17%	53%	35%
2001	-6%	3%	-46%	-18%	-38%	15%
2002	8%	-8%	-31%	11%	-8%	1%
2003	5%	8%	34%	13%	115%	23%

出所：Immigration Authority

次に、2003年の月別外国人渡航者数を見ると、乾季の12月がピークで、雨季の始まる4月が底というパターンを示している。一般的に観光シーズンは、乾季で気温の下がる11月から3月位までとされているが、観光以外の入国目的も含む全渡航者のデータでは雨季の7月にもピークがある。 Bangladesh の観光振興にとって、オフシーズンの観光客の落ち込みをどれだけ少なくすることができるかは一つの課題であるが、4月～10月の訪問客を対象にした新たな観光ニーズの掘り起しの検討は今後の課題の一つであろう。

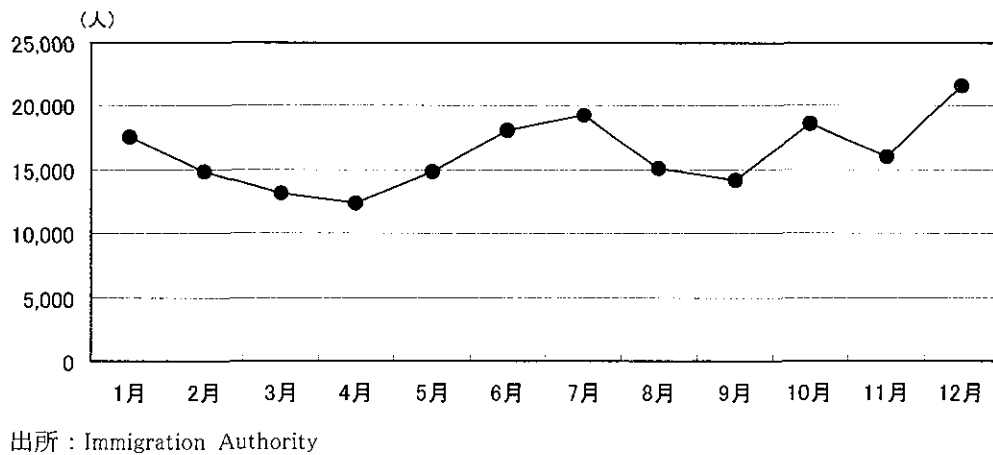


図4-2 2003年月別外国人渡航者数

その他、ダッカ、チッタゴンの主要ホテル、主要空港、陸路国境事務所における外国人渡航者の無作為抽出アンケート調査が最近実施され、以下の点が明らかになった。

- ・性別：男性82.09%、女性17.91%
- ・職業：ビジネスマン38.81%、エンジニア15.91%、教員4.98%、医療関係者4.90%、その他35.32%
- ・滞在日数：1～9日49.25%、10～20日21.89%、21～30日6.47%、31日以上22.39%

4-2 国内観光客の動向

国内旅行者数であるが、これは統計がなく、実態はよく分からないのが現状であるが、旅行業関係者の話を総合すると、ラマダン明けのイードの時期等には、コックス・バザール、クアカタ等のビーチ・リゾート、チッタゴン丘陵のカプタイ湖等は多くの観光客で賑わうなど、所得の増えた都市住民を中心に、国内観光客も徐々にではあるが増加傾向にあると考えられる。

4-3 交通手段、宿泊施設、レストラン等の現状

国内の都市間を結ぶ一般的な交通手段は、長距離バス、フェリー・ボート、飛行機、鉄道である。なかでも長距離バスは、ダッカを拠点にして車であれば一日で東西南北何れかの国境まで到達することのできる Bangladesh においては、最もポピュラーな交通手段である。しかし、道路事情を無視したスピードの出しすぎ等、無理な運転も目立ち、事故も多い。外国人グループツアー客用には各ツアー・オペレーターが自社の専用バスを保有しており、現在それを使用している。

フェリーは、長距離バスと並んで一般的な交通手段である。ダッカからシュンドルボンを周遊

する観光クルーズ船も、ツアー・オペレーターによって運営されている。

飛行機は国営のビーマン航空、民間航空会社BMGが運航している。ダッカと主要地方都市（シレット、チッタゴン、コックス・バザール、ボリシャル、ジェッソール、ソイドプール、ラジシャヒ、パプナ）を結んでいる。しかし、ダッカ市内から空港まで、また地方空港から当該都市までの交通渋滞、飛行機の遅延、運航キャンセル等もあるために車で移動した場合とあまり時間が変わらない場合もあるようである。

鉄道は、広軌とメーターゲージの2種類がある。路線は多くはないが、主要都市間は結ばれている。しかし、一日の運行本数は少なく、稀に運休もあるので、旅行の移動手段としては現状では便利とはいえない。

宿泊施設は、その数は観光公社BPCも把握しておらず、実数は不明である。しかし、旅行業界関係者によれば、ダッカ、クルナ、コックス・バザールは数的には充足しているが、一方チッタゴン、ボグラ、ラジシャヒ、ランプール等の主要地方都市はホテル不足が目立ち、グループツアー客等の収容力に限界があると指摘している。また、エコ・ツーリズムの拠点であるシュンドルボン地区には、現在森林局のゲスト・ハウス以外には宿泊施設がない。

レストランもその数は観光公社BPCによって把握されていない。しかし、ダッカ市内には外国人が多く居住する地区を中心にレストランが立地しており、数的には充足していると思われる。しかし、地方都市は地元民が利用する屋台等は多く見受けられるものの、レストランの実態ははっきりしない。しかし、主要地方都市に立地する観光公社運営のホテル等にはレストランが併設されており、外国人旅行者でも十分に利用することができる。また、主要国道沿いにはいわゆるドライブインが整備されており、長距離バス、車で移動する場合には地域にもよるが快適に利用することができる。

4-4 旅行代理店の数および提供サービスの内容

前述のように、旅行代理店として登録している業者は1,300社以上あるが、大別して業務の90%は中東等への出稼ぎ労働者、その他の業務渡航者を対象にした出国者用旅行業務であり、主な業務は、航空チケットの手配、渡航手続き代行等である。残りの10%が国内旅行のチケット予約・手配業務である。しかし、近年は国内旅行業務の割合が徐々に増加しているとのことである。

バングラデシュ旅行代理店協会ATABによれば、代理店の地域的分布を見ると、ダッカ800~900社、チッタゴン250社、シレット200社、その他地域100社程度とのことである。なお、ATABの設立された1975年にはメンバー会社は52社だったとのことであるが、旅行需要の増加に伴い、現在までに旅行代理店の数は20倍以上増えたことになる。

旅行代理店の他に、バングラデシュ旅行企画会社協会TOABに所属する各種グループツアーを手掛ける旅行企画会社（Tour Operator）が現在42社あり、そのうち、外国人グループ旅行を手掛けるのが6社ほどある。これらは今後の観光開発の中核になるべき会社であり、日本をはじめヨーロッパ諸国の旅行者とも取引関係を持ち、また積極的にクルーズ船建設の投資等を行っている。政府のNational Tourism Advisory Committee、Tourism Subcommitteeにもメンバーとして参加し、観光振興に対し民間セクターとして積極的な意見具申を行っている。

第5章 観光資源の開発ポテンシャル

5-1 主要観光資源

バングラデシュは、南西部に広がる世界最大のマングローブ林シュンドルボン、全国いたるところに広がる水田、縦横に走る河川、ベンガル湾に面する長い海岸線、ミャンマーと国境を接する東部丘陵地帯等が織りなす自然風景と紀元前まで遡るヒンズー教、仏教、およびその後入ってきた回教がもたらした文化・歴史遺産が観光資源の基礎を形成している（本章添付の「観光地写真」参照）。

特に、紀元前9世紀からのヒンズー文化、紀元前3世紀からの仏教文化、13世紀ごろからのイスラム文化の影響を受け、多くの歴史的文化的遺産を受け継いでいる。特に、8世紀から12世紀にかけて北インド、ベンガル地方を支配したパーラ朝時代の仏教文化、ヒンズー文化が興隆を極めた時期の遺産は今日では貴重な文化遺産であり、また観光資源でもある。

バングラデシュの観光資源は大別すると以下のとおりであるが、代表的なものとしては、①自然資源では、マングローブ林、海岸線の長いビーチ・リゾート、丘陵地帯の湖リゾート、水郷、②歴史・文化資源では、仏教、ヒンズー、イスラム教に係る歴史的建造物・考古学的遺跡、③民俗文化では、東部丘陵地区の少数民族の芸能・文化・生活等を挙げる事ができる。

(1) 主なエコツーリズム自然資源

- ・世界最大のマングローブ林シュンドルボンとその生態系（ベンガル・タイガー生息地）
- ・シレット（紅茶畑と渡り鳥のサンクチャリー）
- ・チッタゴン丘陵地区（カプタイ湖周辺地）
- ・コックスバザール（世界最長の海岸線を持つビーチ）
- ・クアカタ（海からの日の出、日の入りが同じ場所で見られるビーチ・リゾート）
- ・セント・マーチン島（バングラデシュ最南端のサンゴ礁の島）
- ・マドブクンドウの滝
- ・タマビル-ジャフロン、スリモンゴルの紅茶畑、等

(2) 考古学的・歴史的資源

- ・パハルプール仏教僧院遺跡（世界文化遺産、8世紀）
- ・モハスタン都市遺跡（3世紀）
- ・モエナモティ仏教僧院遺跡（8世紀）
- ・バゲルハット（世界文化遺産、モスク都市、15世紀）
- ・ラールバード・フォート（17世紀）

(3) 宗教関連資源

- ・バユトウルモカロム・モスク（ナショナル・モスク）
- ・スターモスク
- ・カンタジ・ヒンズー寺院
- ・プティア・ヒンズー寺院群
- ・シタクンドウ・ヒンズー寺院、仏教寺院

- ・アディナート・ヒンズー寺院（コックスバザール、モヘシュカリ島）
- ・ランゴルボンド・ポンチョミ・ガット（ダッカ郊外、ヒンズー教徒聖地・沐浴場）
- ・ラム（コックスバザール東に位置する仏教徒の村、仏教寺院）、等

(4) その他の観光資源

- ・カプタイ湖（東部丘陵地区のダム湖）
- ・国会議事堂建物群（20世紀の最後の巨匠といわれるルイス・カーン設計）
- ・国立博物館
- ・独立記念塔
- ・カーゾン・ホール（インド総督カーゾン建設のタウン・ホール）
- ・パナム・シティ、ショナルガオン（ダッカ郊外の古都）

(5) 民俗文化資源、宗教行事

- ・ラマダン・イード（断食明けの祭り、時期は年によって異なる）
- ・コロバニ・イード（牛、ヤギ、羊、ラクダを生贄として捧げる、12月）
- ・モニプリ・ラズバリ・メラ（シレット地区の民族舞踊、3月から4月）
- ・ドルガ・プジャ（ヒンズー教ドルガ神の祭り、ベンガル・ヒンズー教徒最大の祭り）、等。

ダッカ地区、クルナ地区、ラジシャヒ地区、ポリシャル地区、チッタゴン地区の現地踏査を踏まえると、国際観光市場としては、世界遺産（シュンドルボン、バゲルハット、パハルプール）が立地する西南部、西北部の方が開発可能性は高いと考えられる。チッタゴン地区はコックスバザール、カプタイ湖を中心とする丘陵地区に開発可能性があるが、バングラデシュ居住外国人、国内観光客をターゲットとする国内市場およびインド東部州、ネパール等の近隣諸国市場を主要ターゲットとした開発が妥当と考えられる（図5-1参照）。

1人当たり国民所得からみて多くの国民が観光旅行を楽しむ余裕はないのが現状であるが、一方でコックスバザール、クアカタ等には冬季を中心に国内観光客も多数訪れている事実もあり、ダッカ等の大都市部住民を主な対象とした国内観光開発の可能性はあると思われる。

しかし、観光シーズンは11月から3月が中心であり、気候条件、交通・運輸条件等から他の季節の観光は難しいというハンディをどう克服するか課題である。

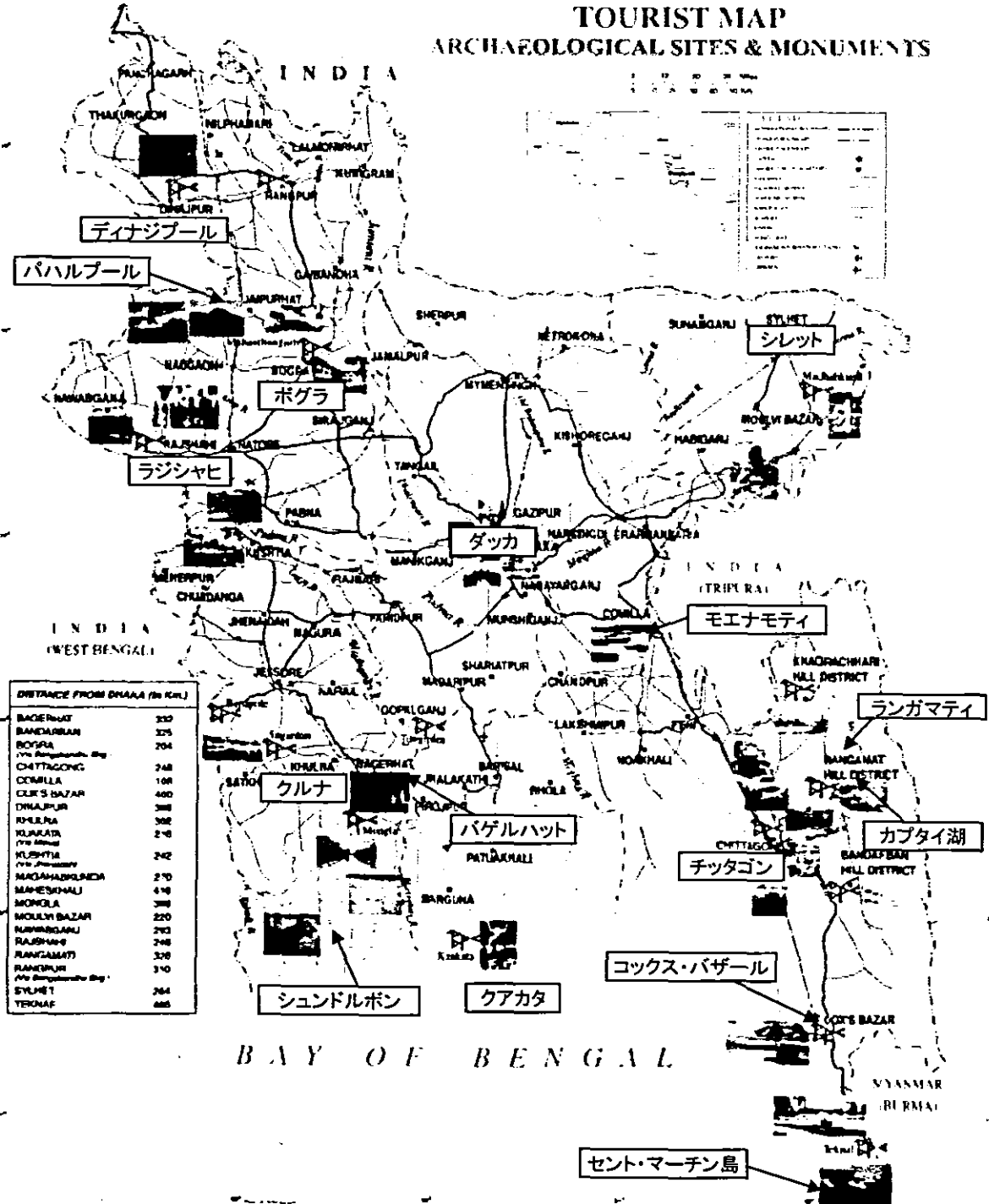
なお、ユネスコ・バングラデシュ事務所によれば、バングラデシュ政府から世界遺産登録申請されている、モエナモティ仏教遺跡（一部が軍用地内に位置し、一般人が容易に見学することができない）、モハスタン都市遺跡（考古学的に貴重な発掘物が現状ではない）、ラールバーグ・フォート（規模が小さく、類似の遺跡は近隣国にもある）の3件は、現状では登録される可能性は低いとのことである。また、パハルプール仏教遺跡に関しては、さらに発掘作業を進めると水没するおそれもあり、事前に排水調査をする必要があり、不用意にさらなる発掘は進められないとの指摘もあった。

一般的に個々の観光資源は関連施設（ホテル、レストラン、運輸・通信、案内所、ガイド、レクリエーション施設、保安施設）も含めて整備が十分でなく、一つ一つの魅力は必ずしも十分で

はない。したがって、複数の観光資源を組み合わせた観光ルート、観光プログラムを開発し、魅力を増加させる工夫が不可欠である。これには近隣諸国（インド、ネパール、ブータン等）を含む国際観光ルートの開発も含まれる。また、民俗芸能、宗教行事等の観光資源化は遅れており、これらを組み込んだ観光開発戦略、観光商品開発が求められる。

土産物産業も現在は十分ではない。しかし、ラジシャヒの絹織物、チッタゴン丘陵の少数民族の織物、ノクシカタ（手刺繍製品）、ジャムダニ織り、籐・竹・ジュート製品、真鍮製品、ボーンチャイナ等の陶器製品等、魅力的な商品は既にあるものの、必ずしも土産物開発という視点を持って開発されているわけではない。適切な商品開発、マーケティングによって十分市場可能性はあると思われる。

TOURIST MAP ARCHAEOLOGICAL SITES & MONUMENTS



出所：BPC「Bangladesh Tourist Handbook」掲載地図を加工

図5-1 バングラデシュ観光地図

観光地写真

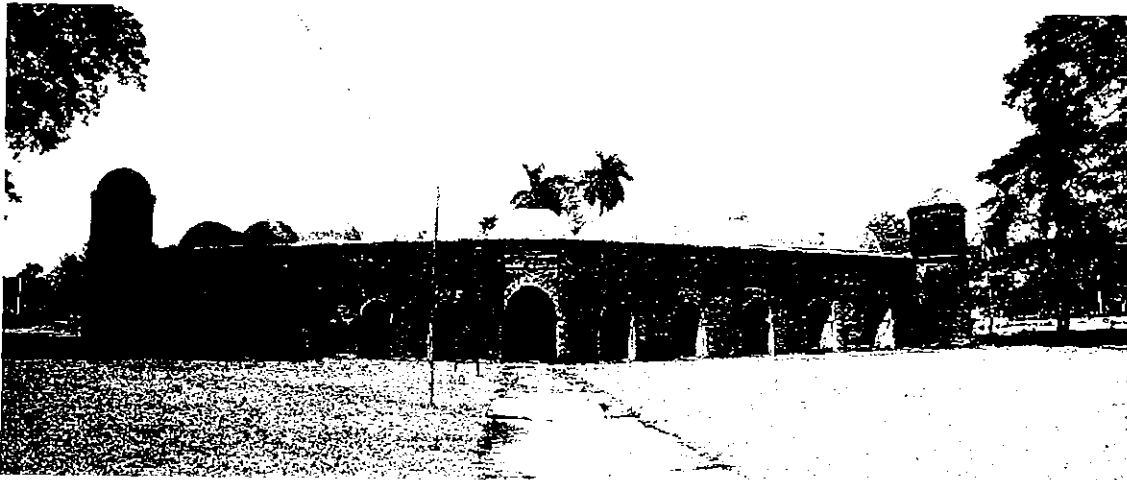
シュンドルボン・マングローブ林（世界自然遺産）



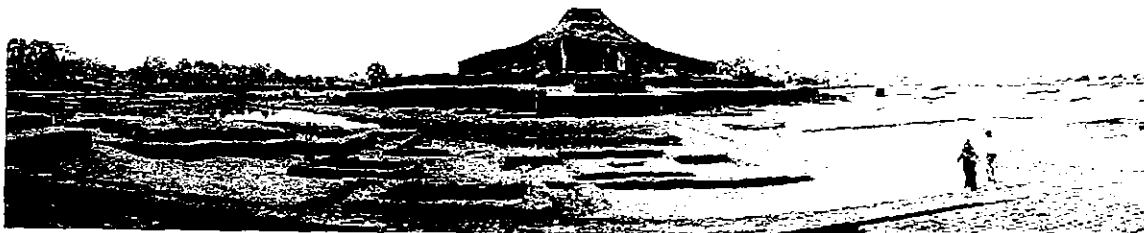
シュンドルボン・遊歩道



バゲルハット、シャイト・ゴンブズ・モスク（世界文化遺産）



パハルプール仏教僧院遺跡（世界文化遺産）



モエナモティ仏教僧院遺跡



クアカタ・ビーチ



クアカタ・ビーチ日の出



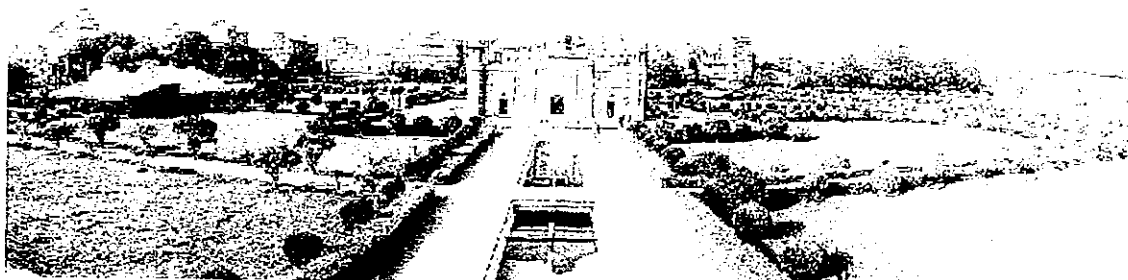
カプタイ湖



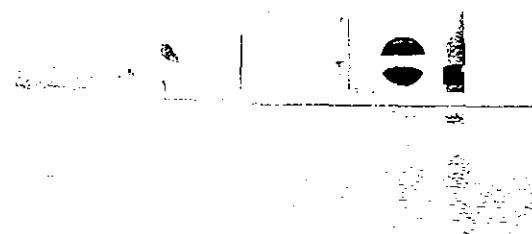
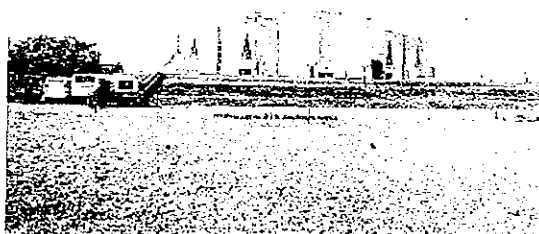
コックスバザール



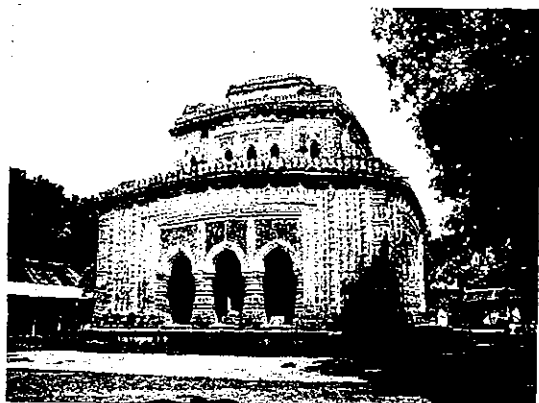
ラールバーク・フォート



国会議事堂



カンタジ・ヒンズー寺院



モハスタン都市遺跡



プティア



シヨナルガオン民俗博物館



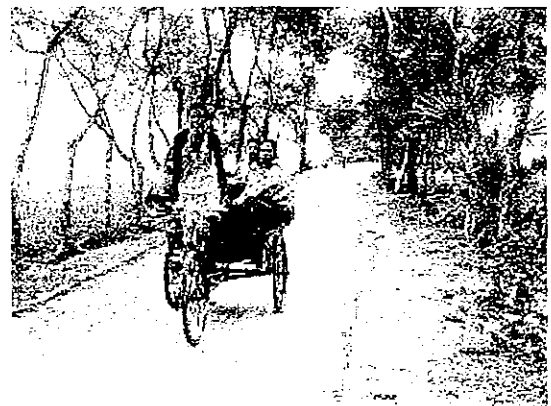
ドルガ・プジャ（ヒンズー教の祭り）



路上バナナ卸売り



農村風景



第6章 日本におけるバングラデシュ対象観光業の現況

6-1 旅行会社

1990年代よりグループツアーが始められたが一時中断等を経て、本格的には2003年度より5社（近畿日本ツーリスト、ユーラシア旅行社、西遊旅行社、トラベル世界、ワールド航空サービス）がグループツアーを手掛けている。世界遺産の存在がツアー企画のきっかけの一つであったとのことである。

2003年度はグループツアー客の合計は約680人であった。2004年度は2003年度の成功をみて、JTBも参入している。本年度のグループツアー客の目標は全社合計で約1,500人を見込んでいる。ツアー参加者の多くは中高年層で、豊富な海外旅行経験者がほとんどである。バングラデシュを旅行先に選択した理由としては、他の地域はほとんど行ったので、未知のバングラデシュに行きたいというものが一番多い。今後、急激にツアー客が増加するという状況にはないが、徐々に増えていくとの見通しである。

一方、旅行代理店の担当者によれば、現在は日本とバングラデシュを結ぶ航空便は直行便がなく、またビーマン航空は週1便のみであり、旅行日程を組むうえで8日間ツアーか15日間ツアーのみという制約があると指摘している。また、ボグラ、ラジシャヒ等をはじめ地方都市のホテルが少なく、部屋数の制限からグループツアーの規模も15人程度に抑えざるを得ないとの指摘もある。

日本の旅行代理店の現地の提携先代理店については、日本人のニーズをよく理解し、各種手配等の事務的処理もしっかりしており、信頼度は高いとの評価であった。

6-2 ガイドブック出版社

ガイドブック出版社大手、ダイヤモンド・ビッグ社（地球の歩き方シリーズ出版）は、アジア諸国ではバングラデシュのみガイドブックを出版していない。日本で唯一出版社、旅行者のみが、旅行者ウルトラガイド「バングラデシュ」を出版している。

ダイヤモンド・ビッグ社の担当者によれば、バングラデシュのガイドブックを出版していない理由として以下の点を挙げている。

- (1) 観光資源が少ない。したがって、読み物としても魅力が少ない。
- (2) 洪水等で現地事情が容易に変化してしまう。したがって、ガイドブック記述の情報が、現況と一致しないこともあり得る。作ったとしても、抽象的な内容にならざるを得ない。
- (3) 現状では、交通インフラ条件等が悪く、バック・パッカー等も含め個人の自由旅行が難しい国であり、ガイドブックのニーズがあまりない。
- (4) バングラデシュ関係機関（政府、ビーマン航空等）から、出版依頼等の働きかけが何もない。
なお、この指摘をバングラデシュ観光公社に報告したところ、早速ダイヤモンド・ビッグ社に対し、出版可能性の問い合わせおよび出版資料提供等の申し入れを行っている。

第7章 国際協力の現状

観光開発分野の開発援助によるプロジェクトは現在ない。過去にはWTOとUNDPによる1988年のマスタープラン策定、またBPCが管轄するホテル・観光トレーニング・インスティテュートに対するILOとUNDPの協力（1978年～1982年、1986年～1989年、1992年～1996年）がある。

近隣諸国との協力では、以下の2つが挙げられる。

7-1 South Asian Sub-regional Economic Cooperation (SASEC)

ADBの協力のもと、SASEC（バングラデシュ、インド東部州、ネパール、ブータンの4カ国対象）の4つあるワーキング・グループの一つに観光開発ワーキング・グループがあり、近隣諸国で共同の観光振興活動を始めている。2001年5月に第1回会合がネパール、カトマンズにおいて開催され、以下に挙げる項目を近隣諸国間の共同目標として活動を続けている。

- (1) 年一回ツーリズム・フォーラムを開催し、SASEC諸国の観光振興の成果を多様なメディアを通して公表し、地域の観光振興を促進する。
- (2) エコツーリズムの振興を行う。
- (3) 観光産業の人材育成を実施する。
- (4) 空路、陸路とも国境の出入国手続き、ビザ手続きを改善する。
- (5) SASEC地域の観光マスタープランを策定する。

特に、各国に共通する仏教遺跡を軸にした観光ルート、観光商品の共同マーケティングを試みている。

7-2 Bay of Bengal Initiative for Multi Sectoral Technical and Economic Cooperation (BIMSTEC)

BIMSTECは域内諸国の社会・経済開発の促進を目標に1997年に設立された。当初、BIMSTECは参加国の頭文字（Bangladesh、India、Myanmar、Sri Lanka、Thailand）をとって名づけられたが、現在は上記のように変更されている。BIMSTECの活動の中に、観光エキスパート・ワーキング・グループ（バングラデシュ、インド、ネパール、ブータン、ミャンマー、スリランカ、タイ）の活動がある。2004年6月に第1回の会合がバンコクで開催され、次回は2005年2月にダッカで開催される予定となっている。観光振興のための共同マーケティング等の試みが模索されている。

第8章 バングラデシュ観光開発の今後の課題

8-1 現状の問題分析の実施

多様な問題点が指摘されているものの、それら問題点の原因、因果関係等が不明で、基本的な問題点、派生的な問題点等の区別等が体系的に明らかにされていない。今後の開発課題を明らかにし、具体的な対応策を検討する基礎として、総合的な問題分析を実施する必要がある。特に、観光開発に係る組織、制度、人材開発、観光資源の管理・運営・保全、観光市場動向等に係る問題に関する構造的な分析と因果関係の把握が必要である。

8-2 観光資源インベントリー調査の必要性

バングラデシュの観光資源の現状を見ると、エコツーリズム、文化・歴史観光、宗教観光、農村観光等が有望であるが、各資源の基礎的資料、データが統一された項目、様式に基づいて整理されていない。したがって、自然資源、考古学的資源、歴史的資源、文化的資源、無形文化財等に関するインベントリー調査を実施し、データ・ベースを作成し、観光資源の全体像を把握、整理するとともに、観光資源としての適切な評価を行う必要がある。このインベントリー調査は、マスタープランをはじめ、各種開発政策、計画を策定するために必要不可欠な基礎資料である。

8-3 マーケット・セグメンテーションの明確化（国際観光市場と国内観光市場の区別）

国際観光市場と国内観光市場を明確に分け、それぞれの市場ニーズと動向を的確に把握し、それに応じた異なる開発戦略と開発計画を策定し、実施していくことが必要である。現状では市場ニーズが大きく異なると思われることから、適切なマーケット・セグメンテーションが求められる。また、国際観光市場はインド、ネパール等の近隣諸国と、日本、欧米、アセアン諸国、中国等の市場ニーズの違いを十分に把握していく必要がある。

バングラデシュ観光公社チェアマンによれば、現在最も注目している海外市場は、日本と中国であり、東アジアからの旅行客を重点的に増やしたいとのことである。その一環として、近隣諸国の仏教遺跡とも連携を図り、パハルプール等の仏教遺跡を中心にした観光を強化していくとのことである。

8-4 観光振興に対する政府の積極的コミットメントの必要性

言うまでもなく、政府の観光開発に対する積極的なコミットメントが求められる。1988年策定のマスタープランも、政権の度重なる交代、政策プライオリティの低さ、予算不足等の条件が重なり、十分に実施されないままに推移した。現在、政府は観光開発への民間セクターの積極的な参加を促す発言をたびたび行い、またBPCの運営するホテルの一部民営化を推進するなど、従来に比べ観光開発の重要性への認識を深めつつあるが、さらに具体的な推進策（国家予算における配分を積極的に増やす、また民間投資に対する優遇策の検討、観光開発の推進体制・組織の強化、必要な法律・規則等の改正、制定等）を打ち出す必要がある。それがあって初めてPPP(Public Private Partnership)が活き、総合的な観光開発への基盤が整うことになる。

8-5 観光振興に対する政府組織強化と関係機関の協調体制の構築の必要性

BPCの機能、役割を、民営化の流れに沿って見直しを行い、政府機関が本来果たすべき役割の

強化を図る必要がある。観光開発は多様なセクターの協力と総合力があって初めて円滑な実施が可能となる分野であるが、現在のBPCの置かれた立場は、民間航空・観光省の管轄下にある政策実施機関という位置づけである。したがって、関連省庁および民間関連団体を統括する強力なリーダーシップを十分に発揮できる立場にはない。

例えば、BPCは観光開発を推進・支援する役割を持ちながらも、一方でバングラデシュの観光開発にとって重要な柱の一つであるエコツーリズムは森林局の管轄になっているために、BPCが一元的に観光開発を管轄できないという矛盾を抱えている。森林局は自らの組織内にも観光開発部門を持ち、独自にエコツーリズム関連の計画策定、施設整備を進めている。このような状況は関係機関の円滑な協調の推進という観点からみて、望ましい状況ではなく改善の余地がある。

観光開発を一元的に管轄し、関係政府機関、関連民間団体等の協同体制を図ることができる観光開発担当機関の設置を検討する必要がある。一方で、BPCの運営しているホテル、レストラン、デューティ・フリーショップ等の運営は一層の民営化推進が求められる。また同時に、デューティ・フリーショップ等の立地をより魅力的なショッピングセンター内に設ける等の工夫改善も必要である。

8-6 観光関連インフラ整備とサービス水準の向上

シュンドルボン、バゲルハット、パハルプールの世界遺産をはじめ、主要な観光スポットの現状は基本的なインフラが不足、もしくは未整備の状況である。アクセス道路の拡幅整備、道案内標識、案内板、説明資料・パンフレット・地図類の充実、専門ガイドの配置、レストラン、休憩施設、展示施設等の改善、サイトの保全・管理施設の整備等の基本的な施設整備、また休日・祭日の施設公開および公開時間の延長等、基本的なこれらのサービス提供は不可欠である。また、多くの施設は入場無料、もしくは2～5タカという徴収額であり、維持管理費を生み出す額ではない。入場料の徴収・管理の問題も含め、これら最低限のインフラ・サービス提供の実現が急がれる。

また、パハルプールのテラコッタ彫刻のレプリカの土産販売等の工夫を含め、魅力ある土産物商品開発、土産物産業の振興もバングラデシュ観光の魅力を増すものおよび地場産業の振興として、サービス向上の一環に組み込んで検討を進めるべきものである。

8-7 民間セクターの観光投資支援策強化の必要性

観光開発関連の民間団体は、ツアー・オペレーター、ホテル業界を中心に近年活発に活動を展開している。しかし、一方でホテル料金に対する高い税金（VAT）、公共インフラの未整備、観光関係資材（観光バス、クルーズ船、アルコール飲料等）の高い輸入関税等の緩和を求めている。

観光振興の観点から既存の制度の見直しを進め、将来の国内経済の拡大、結果として政府財政収入の増加に繋がり得る、観光開発に係る民間投資に対する規制緩和、優遇措置等の検討が必要である。

8-8 観光振興マーケティング戦略と活動強化の必要性

国際観光市場に向けたより積極的なマーケティングと広報宣伝活動が求められる。日本においてもバングラデシュの観光によせる関心は薄く、ほとんど一般の興味を引くこともないのが現状である。英語のガイドブックもLonely Planetのシリーズがある程度で、十分とはいえない。

インターネット等を活用したVisit Bangladesh Campaign等を積極的に展開すべきである。BPCが観光パンフレットを作成し、在外公館に配布する等の努力も行われているようであるが、外務省の協力が必ずしも十分でないとの指摘もある。オール・バングラデシュの取り組みによって、積極的な広報宣伝活動が求められる。

また、現在進められているSASEC、BIMSTECの国際協力による共同マーケティングを積極的に進め、近隣諸国と連携することによってバングラデシュ観光の魅力を増すことが求められる。

第9章 今後の協力の妥当性および協力範囲の検討

9-1 マスタープラン策定の必要性

観光開発の重要性はバングラデシュ政府内でも徐々に認識されつつあり、また民間航空・観光省は、1992年の国家観光政策（National Tourism Policy）に代わる新たな政策指針となる「バングラデシュ観光開発ビジョン2020」を策定中である。しかし、具体的な開発課題、それに基づく開発戦略、段階別優先実施プログラム・プロジェクト等を体系的に示す開発プログラム等はないのが実情である。民間航空・観光省にとって観光振興は重要課題であり、現状を打開すべく努力しているものの、政府内部では開発予算の配分等において、観光開発の政策プライオリティは他セクターに比べ依然として低く、観光開発の経済成長に与える効果等に関して十分な認識が政府内部に浸透したとはいえないのが現状である。

しかし、観光開発の社会経済開発における役割を巡っては、近年貧困削減に果たす役割が注目され、国際的にはヨハネスブルクの環境サミットにおいても、観光産業は一般的に重要な外貨獲得分野であり、貧困削減に貢献する主要セクターであるとの認識が高まった。1992年のリオサミットでは、観光産業はその成長や社会経済的効果にも拘らず、主要な産業分野とみなされないばかりか、持続可能性の議論の主要テーマにもされなかった。

しかし、先進国のみならず今や多くの発展途上国において、観光は外貨獲得と雇用の重要な源である。WTOの2001年の世界観光概観によれば、全世界の観光収入は2001年には4,630億US\$であった。これは1日当たり13億US\$、14億ユーロとなる。観光客1人当たりからの平均収入は670US\$であった。

バングラデシュでは、社会経済開発における観光開発の役割の重要性を広く関係者に浸透させ、かつ効果的に観光開発を進めるためにも、マスタープラン策定が必要であり、「バングラデシュ観光開発ビジョン2020」の策定を受け、その実現に向けた具体的戦略、手順を明らかにすることは必須である。しかし、バングラデシュ政府は、現在マスタープランを独自に策定するためのキャパシティを十分に持たず、我が国に対して技術協力の要請をしてくれている。

バングラデシュは、従来JICAが手掛けた観光開発マスタープラン対象国に比べ、観光産業の成熟度は低く、観光開発の初期段階にあるといえる。しかし、観光産業の持つ貧困削減における役割の重要性に焦点を当て、観光開発を軸にした雇用機会の創設、所得向上、地域経済振興を目標に据えたマスタープラン策定に我が国が協力をすることの意義は大きいと考えられる。また、観光開発を通して、国外において広く浸透している「貧困国、自然災害多発国」といったバングラデシュのネガティブ・イメージを改善し、国民意識の高揚に対する貢献も期待される。

すなわち、従来の観光開発では必ずしも明示的に取り上げられてこなかった後発発展途上国における貧困削減に向けた観光開発の意義、役割を明確にし、貧困削減実現に向けた具体的なプロジェクト・プログラムおよび具体的な実施手順等を、マスタープランによって明らかにすることは、後発発展途上国の社会経済開発における観光開発の新たな役割を確立することであり、今後他の後発発展途上国への適用可能性もあり、意義深いものと考えられる。

一方で政府のマスタープラン実施能力をみると、1988年策定のものほとんど実施されること

なく終わっており、また1992年策定の観光開発政策も部分的な進展はあるものの、十分な成果を挙げるには至っていない。本調査で面談した首席首相秘書官にこの点を指摘したところ、政府も現在は観光開発の重要性を認識しており、マスタープラン策定とその実施に向けて、政府としてもできる限りのことを行うと言明しているが、現時点でバングラデシュ政府に観光開発マスタープランの高い実施能力が十分にあるとは思えない。

したがって、マスタープラン策定作業そのものを、政府関係者をはじめステークホルダーの啓蒙活動の一部として位置づけ、問題分析、開発課題の抽出、開発プログラム・プロジェクトの選定、優先プロジェクトの選定と実施等、それぞれの作業ステージごとに、バングラデシュ側関係者（政策決定者レベル、政府実務者レベル、民間事業者、学識経験者、一般市民等）の積極的参加と貢献を求めることは必要不可欠である。

1988年策定のマスタープランはその内容をみると、バングラデシュ側の積極的参加が欠如したまま策定されたと思われ、コンサルタント主導で策定された可能性が高い。また、具体的なプロジェクト実施時期、方法等に関する記述がなく、そのままでは実施が困難な内容でもあった。このような事態を防ぐためにも、バングラデシュ側関係者との共同作業に基づく内容および策定プロセスが求められる。

同時に、マスタープランは政府の政策実施キャパシティに応じた現実的な実施可能性の高いものを中心に構成する必要がある。過去の実績を踏まえると、近い将来すぐに政府のキャパシティが強化されるのは難しいという前提に立つ必要がある。

したがって、実施段階別（短期、中期、長期）の開発プログラム・プロジェクトの検討の他に、バングラデシュ政府側の実施体制の強化段階別（具体的な予算配分強化、投資助成措置、組織体制強化等）、言わば政府の具体的な準備段階別の開発プログラム・プロジェクトを策定することが必要と考えられる。

すなわち、政府の準備段階に応じて、段階ごとのプログラム・プロジェクトの実施可能範囲その政策効果をシナリオ分析等によって提示し、目的達成可能範囲・内容等を具体的に提示するなどの工夫が必要である。

実現可能なマスタープラン策定に重点を置き、エコツーリズム、ビレッジ・ツーリズム等において地道ながらも着実な成果を挙げることは、我が国の技術協力として意義深いものと考えられる。

9-2 専門家派遣

観光開発マスタープランは既に見てきたように、多様なステークホルダーとの意見調整が求められるが、開発調査の実施を円滑かつ効果的に進めるために、調査団、BPC、および関連政府機関、民間観光事業関係者、コミュニティ・リーダー等の調整役とともに、観光開発に係る政策アドバイスを担当するJICA長期専門家（観光開発／地域開発政策アドバイザー）を、BPC等に派遣することも合わせて検討すべきである。独自にビレッジ・ツーリズム等、直接に農村部の雇用拡大等が見込まれる案件を発掘し、後述の草の根無償協力案件等を形成する役割も考えられる。

派遣専門家に求められる専門性としては、幅広く各地域の開発ポテンシャル・ニーズを把握し、貧困削減、地域産業振興、地域経済成長、環境保全、社会配慮等の視点から観光開発政策・計画

を幅広く担当、調整する能力である。したがって、地域開発政策・計画と観光開発政策・計画分野の両方の業務経験を持つことが望ましい。

9-3 その他の協力可能範囲

問題分析が十分に行われていない現状、および実質的にマスタープランのない状況を踏まえると、現時点で、個々の具体的分野、案件を取り上げて、協力を進めるのは困難であり、効果的でないと考えられる。したがって、原則的にはマスタープランの策定を踏まえ、そこで開発課題として明確な位置づけがなされ、優先課題として取り上げられるプログラム・プロジェクトの中から今後の協力可能案件を選択する必要がある。

しかし一方で、プロジェクト規模が小さく、他の案件との調整をそれほど必要とせず、マスタープランの策定を経なくても協力可能案件として取り上げ得るものとして以下のものが挙げられる。

(1) 国立ホテル・観光研修所 (National Hotel & Tourism Training Institute) への技術協力

1974年に設立されたBPC所管の研修所で、ホテル・マネジメント、飲食サービス、客室管理・洗濯サービス、パン菓子製造、旅行エージェント・旅行企画・運営等の研修コースがある。今までに2万人の修了者を送り出している。既述のとおりILOおよびUNDPから1980年代、1990年代に3期にわたり協力があつたが、現在は無い。施設・資材の老朽化もあり、変化しつつある市場ニーズに合った効果的な人材育成に関するカリキュラム等の検討、資機材の改善が求められている。専門家派遣、研修員受入れ、資材供与等が考えられる。

(2) 世界遺産地域周辺のインフラ整備事業への協力

シュンドルボン、パハルプール、およびバゲルハットの世界遺産は、現状では関連施設（ホテル、レストラン、運輸・通信、案内所、ガイド、レクリエーション施設、保安施設）も含めて整備が十分でない。特に、アクセス道路の改善、展示施設の改善、案内板の整備等の基本的なインフラ・施設整備への技術協力、資金協力は必要度が高いと考えられる。文化無償の適用も考えられる。

(3) ビレッジ・ツーリズム等への草の根無償資金協力

シュンドルボン、チッタゴン丘陵地区、クアカタ等をはじめ、バングラデシュにとってエコツーリズムは有望な分野であるが、国際観光および国内観光両方を視野に入れたビレッジ・ツーリズム（村等のコミュニティが運営・開発主体となり、民間投資家等の協力の下、観光施設、プログラムを開発・運営する観光事業で、小規模の投資で地場産業として観光を育てるもの）の振興は、一つの選択肢である。

的確な事業計画の策定と十分な実施可能性調査が必要であるが、コミュニティ・レベルの地道な観光開発は観光産業の裾野を拡大させていくためにも、適切な誘導が求められる。草の根無償等の小規模な資金援助による効果的なプロジェクトの発掘も視野に入れるべきである。これにはコミュニティ・レベルにおける土産物産業の振興等も含まれよう。

付 属 資 料

1. 調査スケジュール
2. 主要面談者リスト
3. 英文要約
4. National Tourism Policy,1992

1. 調査スケジュール

日 時	行 程
9月26日	日 東京→バンコク
9月27日	月 バンコク→ダッカ、JICAダッカ事務所打合せ
9月28日	火 日本大使館表敬
9月29日	水 財務省対外関係局、民間航空・観光省、バングラデシュ観光公社（BPC）表敬訪問
9月30日	木 バングラデシュ観光公社打合せ、ダッカ市街地（ショドルガット、ニューマケット）視察
10月1日	金 資料整理
10月2日	土 バングラデシュ観光公社主催「観光開発ワークショップ」参加、ホテル・観光トレーニング・インスティテュート視察、ダッカ市内ホテル施設視察
10月3日	日 バングラデシュ旅行社協会（TOAB）会長、バングラデシュ観光開発協会会長（TDAB）面談
10月4日	月 国立博物館視察、バングラデシュ・ホテル・ゲストハウス所有者協会関係者面談
10月5日	火 バングラデシュ旅行者協会会長面談、バングラデシュ商工会議所会頭面談、ショナルガオンホテル日本人支配人面談、ダッカ市内仏教寺院・ヒンズー寺院視察
10月6日	水 観光情報誌Monitor編集長面談、ダッカ市内視察
10月7日	木 クルナ地区視察（ダッカ→クルナ2泊→ダッカ）
10月8日	金 （クルナ、バゲルハット、シュンドルボン、クシュティア）
10月9日	土 バングラデシュ・ホテル・ゲストハウス所有者協会主催観光開発関係者夕食会
10月10日	日 市内視察（ヒンズー寺院、商業地区）
10月11日	月 コンコルド・グループ会長面談（大手不動産ディベロッパー）、コンコルド・グループ主催観光開発関係者夕食会
10月12日	火 ラジシャヒ地区視察（ダッカ→ボグラ1泊→ラジシャヒ2泊→ディナジプール1泊→ダッカ）
10月13日	水 ボグラ、モハスタン、パハルプール、ラジシャヒ（ボレンドロ研究博物館、シャハ・モクデ
10月14日	木 ウム・マジャル、シルク工場等）、プティア（ゴヴィンダ寺院、ゴバーラ寺院、シヴァ寺院、
10月15日	金 ロッド寺院、エク・バングラ寺院等）、ディナジプール（ラズバリ、ラムシャガール湖）、カ
10月16日	土 ントノゴール寺院、ランプール
10月17日	日 バングラデシュ観光公社打合せ
10月18日	月 環境・森林省森林局面談、ダッカ市内カソリック教会視察
10月19日	火 アジア開発銀行SASEC担当者面談、文化省次官面談
10月20日	水 ユネスコバングラ事務所長面談、ドウルガ・プジャ視察
10月21日	木 首相府首相首席補佐官面談
10月22日	金 ボリシャル地区視察
10月23日	土 （ダッカ→マワ→ボリシャル→クワカタ2泊→ボリシャル→アリチャガット→ダッカ）クア
10月24日	日 カタ視察
10月25日	月 ショナルガオン（民俗博物館、ゴアルディ・モスク、パナム・ナガール）、モエナモティ仏教
10月26日	火 バングラデシュ観光公社打合せ
10月27日	水 チッタゴン地区視察（ダッカ→ランガマティ2泊→コックスバザール2泊→チッタゴン1泊→
10月28日	木 ダッカ）
10月29日	金 ランガマティ（カプタイ湖、ラズボン・ビハール（仏教寺院）、ボルコル、チャクマ族集落）、
10月30日	土 コックスバザール（ビーチ、仏教寺院、バルミス・マーケット、テクナフ）、チッタゴン（民
10月31日	日 族博物館、第二次大戦兵士墓地、フォイズ湖アドベンチャーランド建設現場、ポテンガ・ビ
11月1日	月 ーチ、シタクンドウ・エコパーク）
11月2日	火 バングラデシュ観光公社打合せ
11月3日	水 中間報告（大使館、JICA）
11月4日	木 バングラデシュ観光公社打合せ、ベンガル・ツアー面談
11月5日	金 ラルバーグ・フォート、アルメニア教会視察
11月6日	土 民間航空・観光大臣報告、バングラデシュ観光公社打合せ、航空サービス関連団体夕食会
11月7日	日 Fantasy Kingdom（テーマ・パーク）訪問
11月8日	月 バングラデシュ観光公社打合せ
11月9日	火 資料分析・整理
11月10日	水 大使館、JICA報告、バングラデシュ観光公社報告
11月11日	木 Dhaka→Bangkok
11月12日	金 →Tokyo

2. 主要面談者リスト

	名 前	所 属	役 職
1	堀口松城	在バングラデシュ日本大使館	特命全権大使
2	宇喜田秀俊	在バングラデシュ日本大使館	公使
3	紀谷昌彦	在バングラデシュ日本大使館	参事官
4	新田康二	在バングラデシュ日本大使館	一等書記官
5	Kamal Uddin Siddiqui, PhD	Prime Minister's Office	Principal Secretary
6	Md. Didarul Ahsan	Economic Relations Division, Ministry of Finance	Deputy Secretary
7	Mir Mohammad Nasiruddin	Ministry of Civil Aviation & Tourism	State Minister
8	Md. Humayun Kabir	Ministry of Civil Aviation & Tourism	Joint Secretary
9	Dr. Mohammad M. Rahman	Bangladesh Parjatan Corporation (BPC)	Chairman
10	Basu Dev Bhattacharjee	Planning, Training & Statistics Division, BPC	General Director
11	Mohammed Absanullah	Commercial Division, BPC	General Manger
12	Ziaul Haque H. Babloo	Planning, Training & Statistics Division, BPC	Executive Officer
13	Swapan Choudhury	Bangladesh Parjatan Corporation (BPC)	Manager (Art)
14	Mahbub J. Jahangir	National Hotels & Tourism Training Institute, BPC	Principal
15	Sadique Ahsan	Bangladesh Hotel & Guest House Owners Associations	President
16	Faridul Haque	Tour Operators Association of Bangladesh (TOAB)	President
17	M. Zamiul Ahmed Zamil	Tourism Developers Association of Bangladesh(TDAB)	Chairman
18	Shahabuddin Ahmad	The Travel World	Editor
19	Adil Uzzanan	Pan Pacific Sonargaon Hotel	Ex Managing Director
20	Abdul Awl Mintoo	The Federation of Bangladesh Chambers of Commerce & Industry	President
21	Manabu Komatsu	Pan Pacific Sonargaon Hotel	Resident Manager
22	M.A. Muhaimin Saleh	Association of Travel Agents of Bangladesh (ATAB)	President
23	Kaji Wahid ul Alam	The Bangladesh Monitor	Editor
24	Abdullah M Hasan	The Bangladesh Monitor	Managing Editor
25	S.M. Kamaluddin	Concord Group of Companies	Chairman
26	Shah Kamaluddin	Concord Group of Companies	Senior General Manager
27	M. Anwarul Islam	Department of Forest, Ministry of Environment and Forest	Chief Conservator of Forest
28	Putu M. Kamayana	Asian Development Bank	Senior Country Programs Specialist
29	Rezaul Karim Khan	Asian Development Bank	Senior Economist
30	Kazi Abul Kashem	Ministry of Cultural Affairs	Secretary-in-Charge
31	Abdur Razzaque	Department of Archaeology, Ministry of Cultural Affairs	Director (Joint Secretary)
32	Motieur Rahman	The Bengal tours Ltd.	Managing Director
33	Masud Hossain	The Bengal tours Ltd.	Executive Director
34	岩田 猛	ユーラシア旅行社	営業・企画部 課長
35	栗山 啓	ユーラシア旅行社	営業・企画部 主任
36	石谷一成	ダイヤモンド・ビック社 (地球の歩き方)	出版事業部 本部長

Project Formulation Survey on Tourism Development in Bangladesh
Fact Findings and Recommendations

Dr. Mamoru OSADA
JICA Project Formulation Survey Mission

The tourism industry of Bangladesh is presently still at an infant stage and less matured. However, the industry has a potential in poverty alleviation, such as job creation, income growth, promotion of village and/or community economy. In addition, the negative country image of Bangladesh such as a poor country suffering from natural disasters which have permeated widely outside the country can be improved through the tourism promotion and it also may contribute to bringing about a positive change in the national consciousness of the Bangladeshi people.

1. Significant issues posed to tourism development of Bangladesh

1.1 Development potential of tourism resources

The western part of the country where the world heritage sites, Sundarbans, Bagerhat and Paharpur, are located generally have a higher development potential for the international tourism market. On the other hand, the eastern and southern parts, the Chittagong hill tract area, Cox' s Basar, Sylhet, and Kua Kata also have potentials mainly for the domestic and regional tourism market. In addition, the best season for the tourism may be generally from November to March because of the climatic conditions. How to overcome the slowdown of tourism business at the off season will be one of future tasks.

1.2 Necessity of development strategy based on the proper market segmentation of international, regional and domestic tourism

A clear and accurate market segmentation of the international, regional and domestic tourism is quite crucial to the tourism development of Bangladesh. At present, the needs of each market vary considerably. Therefore, it is necessary to clarify the different needs and to satisfy them properly. The development strategy must be based on the proper market segmentation.

In addition, an idea of developing 'Exclusive Tourist Zones' at some offshore islands like Sonadia and St. Martin' s Island and other areas is presently discussed among the stakeholders. However, before taking actions toward realization of the idea, needless to say, a sufficient foreign market analysis and evaluation of the candidate sites and programs are necessary. It may be too early to develop the zones for Bangladesh and may have a high risk of investment at present.

1.3 Necessity of comprehensive problem analysis

A lot of problems and constraints for the tourism development such as lack of development funds, low priority of tourism development among the various sectors, few financial incentives by the government for the private sector, lack of infrastructure, lack of practical and efficient coordination among the relevant governmental organizations, etc. have been pointed out separately and sporadically. Most of them may have interactive relationship. The problem situation must be carefully analyzed and the causal relationship among them (causes and results) should be clarified for revising the master plan. A perspective view of the problem situation and priority tasks for the next step may become clear through the analysis.

1.4 Necessity of comprehensive inventory survey on tourism resources of Bangladesh

Bangladesh has a plenty of splendid tourism resources, particularly for eco-tourism, cultural and religious tourism, village or community tourism. Generally speaking, however, their values as tourism resource have not been well recognized yet in the society. Some of them are even neglected by the local people. First of all, a detailed inventory survey of tourism resources including natural, archeological, historical, cultural resources should be undertaken. The data base of the tourism resources should be developed and their values as tourism resource should be evaluated objectively.

The survey is a prerequisite for revision of the master plan. The result is an essential tool for the future tourism planning and development. The items of the survey may include the following information on each identified tourism resource: location map, picture, classification and evaluation of the resource, size, facilities, accessibility, data on visitors, maintenance and operation including cost, present problem and necessary action for the future, etc.

1.5 Necessity of strong commitment of the Government to the tourism development

Tourism development has a lot of potentials to create job opportunities for the local people, both skilled and unskilled labors, that is to say, to create new income generation opportunities. It will definitely contribute toward poverty alleviation in the society. Importance of role of tourism development should be understood by the policy makers and strong intention of the government to promote the tourism is essential. Then the PPP (Public Private Partnership) will work efficiently and harmoniously for the tourism development.

1.6 Necessity of institutional reform and strong coordination and collaboration

The role of BPC should be reviewed and reformed through the privatization movement, that is, to strengthen a role of facilitator and to withdraw from the commercial activities. Tourism is an integrated wide-range industry which consists of various industrial

sectors. Therefore, a strong coordination and leadership among the relevant public and private organizations is essential for a successful tourism promotion. BPC is at present an executing agency of tourism development. Its present institutional position under the Ministry of Civil Aviation and Tourism is not strong enough for the coordination and leadership.

For instance, eco-tourism is at present primarily managed by the Department of Forest. Seemingly other relevant organizations including the Ministry of Civil Aviation and Tourism are subordinate to the department in the field of eco-tourism development. This situation is not favorable to well harmonized eco-tourism development based on the collaboration of the relevant agencies.

The appropriate institutional setting for harmonized tourism development by the various stakeholders must be carefully studied. To establish a National Tourism Development Board may be one of options.

1.7 Necessity of infrastructure development and provision of services at the major tourism sites

Major tourist sites such as Sundarbans, Phaharpur, Bagerhat, etc. are still lacking in basic infrastructure, tourism facilities and/or services. In most sites, improvement of narrow access roads is necessary. Furthermore, accommodations and restaurants, well-trained guide, route maps, explanation panels, guideposts to the sites, upgrading of exhibition facilities, night guards for protection of the sites are necessary. At least, minimum level of requirements should be fulfilled first.

1.8 Necessity of promotion of the private sector investment

Financial incentives, such as tax exemption for tourism investments in a certain period and other deregulation to promote the private sector's investment for the tourism development are necessary. However, at first a simulation study on effects of the possible tourism promotion measures by the Government should be carefully undertaken, which is a study investigating positive effects of the measures on revenue growth of the government in the long term. Based on the results of the survey, appropriate and justified financial incentives should be prepared and given to private investment activities.

1.9 Necessity of active and efficient promotion and campaign for the international tourism

More active and efficient promotion and advertising campaign of 'Visit Bangladesh' by the government are necessary. For instance, in Japan Bangladesh is still an unknown country as an international tourist destination and unfortunately most Japanese tourists don't have any special interest in Bangladesh. One of reasons is a lack of information on Bangladesh tourism. As for a guidebook written in English there is only one

published by Lonely Planet. The present situation of tourism campaign should be improved by the strong initiative of the government.

Today, campaign activities through the internet and other electronic media including TV can be utilized with reasonable costs.

In addition, joint efforts through SASEC and BIMSTEC also should be strengthened to increase the attractiveness of Bangladeshi tourism.

2. Formulation of the tourism development master plan

The importance of tourism development for socio-economic development has been gradually recognized within the Bangladesh government. The Ministry of Civil Aviation and Tourism is at present drawing up “Bangladesh Tourism Vision 2020” which will be new guidelines for the tourism development policy in place of the National Tourism Policy, 1992. In fact, however, there is no master plan which shows concrete future tasks, development strategy, phased implementation plan of priority projects and programs based on the guidelines.

The tourism development is, needless to say, one of major tasks for the Ministry of Civil Aviation and Tourism. The ministry has been making efforts toward the tourism promotion. However, the political priority of the tourism has been still relatively low among the various industrial sectors in terms of allocation of the national development budget. Unfortunately the possible socio-economic effects of tourism development on the economic growth haven't been well recognized and penetrated deeply into the government yet.

Recently a spotlight has been cast on the socio-economic role of tourism toward the poverty alleviation. At the Johannesburg Summit in 2002 recognition has been spread internationally that the tourism industry was an important foreign currency earner and a major sector contributing to poverty alleviation. At the Rio Summit in 1992 the tourism industry was even not a main theme of discussion in spite of its steady growth and socio-economic effects. Today the tourism is an important source of foreign exchange and job creation for not only skilled but also unskilled labors. This is applicable not only to developed but also developing countries. According to the World Tourism Organization, the income of tourism sector was US\$463 billion in 2001 all over the world which was equivalent to US\$1.3 billion per day or US\$670 per tourist.

It is quite crucial to the tourism development of Bangladesh to formulate the tourism development master plan and to disseminate the socio-economic importance of tourism among the stakeholders, in particular policy makers. They should understand Bangladesh has far lagged behind the neighboring countries in terms of tourism development and its foreign currency earnings in spite of her splendid tourism potentials. In parallel with formulating the Bangladesh Tourism Vision 2020, a concrete strategy and a phased implementation program to realize the vision is quite important.



GOVERNMENT OF THE PEOPLE'S REPUBLIC OF
BANGLADESH

NATIONAL TOURISM POLICY

MINISTRY OF CIVIL AVIATION AND TOURISM

FEBRUARY, 1992.

CONTENTS

<u>Subjects</u>	<u>Page</u>
Background of Tourism Industry	1
Aims of Tourism Policy	4
Main Features of Tourism Policy	5
Strategies for Tourism Policy	13

NATIONAL TOURISM POLICY

1.0 Background

1.1 Tourism industry did not play any significant role in the internal or international economy until the first-half of the twentieth century. Tourism then used to be a means of recreation and diversion of only a few wealthy and aristocratic people of taste and some committed travellers to lands far and near. But over the last four decades there has been radical change in the situation and tourism has made remarkable contributions to the economy of various countries and that of the World by developing into an industry and has gained importance in increasing the domestic wealth. Tourism industry is now recognised as the World's third largest trade.

1.2 As it is now possible to travel far and wide in shorter times due to unprecedented development in communication and transportation system, tourism has developed into an important popular medium of greater contact between peoples of different countries, of exchange of social and cultural ideas, and above all as a contributory factor to growing international amity, cooperation and global fraternity. The international community has unanimously accepted this reality and thereupon the World Tourism Organization was established in 1975 under the aegis of the United Nations Organization for providing administrative and institutional support to this industry. Bangladesh is one of the founder-members of this organisation. Besides, various international, regional and multinational organizations, such as UNDP, World Bank, IMF, UNESCO, EEC, ESCAP, ADB are giving different types of financial and technical assistance at an increasing rate for promotion and development of the tourism industry.

2.0 Tourism—A Multi-dimensional Industry

2.1 Tourism is a multi-dimensional industry. For the development of this industry, it is essential to have effective coordination of national planning (Planning Commission); Capital investment (Finance Division & Banks); arrangement of economic resources and technical assistance (Economic Relations Division); physical infra-structural facilities development (Road and Road Transport Division, Railway Division, Ministry of Post and Telecommunications, Ministry of Energy and Mineral Resources, Ministry of Works); preservation of historical and archaeological monuments and sites, patronage to fine arts and crafts (Ministry of Cultural Affairs); simplification of entry-exit regulations for foreigners (Ministry of Home Affairs,

National Board of Revenue and Bangladesh Bank); development of the handicrafts industry (Ministry of Industries); conservation of forests and wildlife (Ministry of Environment and Forest); improvement of transfer arrangements for air passengers (Civil Aviation Authority); external publicity and marketing (Bangladesh Parjatan Corporation, Ministry of Information, Bangladesh Biman, Ministry of Foreign Affairs and Export Promotion (Bureau); travelling through waterways (Ministry of Shipping). Besides it is essential to construct hotels and motels, create recreational facilities, make arrangements for suitable types of transport for the movement of tourist-groups (package tour).

2. 2 In order to attract tourists to visit Bangladesh through marketing of its tourist attractions, the following facilities will also have to be developed in the country:—
- a. arrangement of accomodation;
 - b. arrangement of safe travel within the country by road, river and airways;
 - c. arrangement of food and drinks;
 - d. arrangement of recreation and entertainment;
 - e. arrangement of sight-seeing tours;
 - f. arrangement of sale of souvenirs/handicrafts;
 - g. arrangement of safety and security for tourists keeping restrictions of movement within the country to the minimum.

3. 0 Tourism Industry of Bangladesh

3. 1 Tourists are attracted by various natural and man-made objects. Remarkable among these are sea-beaches, archaeological and historical relics, flora and fauna, natural scenery, tribal lifestyle and the indigenous culture. There is an abundance of attractions of these kinds in Bangladesh.
3. 2 But so far no definite and coordinated steps have been taken in Bangladesh to increase national income in foreign currency and prepare a proper situation for employment in the tourism industry by developing these potentials and the internationally recognisable attractions. After the independence of Bangladesh a few tourism development plans have been prepared with foreign assistance. The latest five-year development plan and a perspective plan have been prepared with assistance of World Tourism Organisation and United Nations Development

Programme. But no progress has been made towards the achievement of the targets of the latest plans in the same way as it had not been possible in respect of the previous ones for the lack of due importance given to them and allocation of fund and absence of following a coordinated policy for the development of this industry during the last three five-year plan-periods. On the other hand, investments made for the development of this industry in an uncoordinated manner have not been able to achieve any remarkable progress. Even in the fourth five-year plan, allocation of funds for this industry is inadequate. The development of tourism resources has been impeded due to these reasons and it has not been possible to earn desired amount of foreign currency and creation of employment opportunities in this sector. Besides, it has not been possible to attract domestic and foreign investment in the private sector of the tourism industry. Due to lack of proper development of this industry it has not been possible to create opportunities to brighten and uphold the image of Bangladesh abroad and people of the country have also been deprived of desired facilities for recreation on this account.

- 4.0 According to certain quarters, the tourism sector is not worthy of any priority in Bangladesh, because economic growth in this sector is not yet remarkable and the prospect of its growth in the social context of Bangladesh is slim. But this impression is not correct. Tourism industry in the neighbouring countries such as Nepal, Sri Lanka, Maldives and India is given priority under state-patronage and it is one of the chief sources of earning foreign exchange and employment generation. Moreover, remarkable growth and development of tourism has taken place in countries with similar socio-religious environment. Malayasia and Indonesia are among such countries. Even Bangladesh can earn more foreign exchange and create employment opportunities for more people if appropriate domestic and foreign investments are made and necessary infrastructural facilities are built. Consequently the tourism sector may make a worthy contribution to poverty-alleviation and socio-economic welfare of the country. By the year 2000, competition in the field of tourism will increase manifold as various countries of the World and multi-national business organizations are taking steps to earn more profit by investing more in this sector. If Bangladesh is to have a share of the world tourism earnings by taking part in this competition, she has to follow a well-coordinated, specific, strong and realistic tourism policy for this promising industry.

5.0 Aims of Tourism Policy

- (1) Increasing foreign exchange earnings by attracting foreign tourists ;
 - (2) Increasing interest in tourism activities among the people and creating low-cost tourist facilities for them ;
 - (3) Development, preservation and maintenance of tourism resources of the country ;
 - (4) Taking steps for alleviation of poverty by creating employment opportunities for greater number of people ;
 - (5) Creating a favourable image of Bangladesh abroad ;
 - (6) Opening up a recognised field of investment for private capital ;
 - (7) Creating recreational facilities for foreign tourists and local people ;
 - (8) Developing the handicrafts and cottage industries, consolidation of national solidarity and consensus through fostering and development of the culture, heritage and traditions of the country.
-

6.0 Main Features of Tourism Policy

6.1 In the context of the background discussed, it is possible to change the socio-economic condition of the country through the development of its tourism resources. With a view to realizing these potentials the main features of the proposed policy are given below :

6.2 Tourism shall be considered as an industry of due priority, and this will be appropriately reflected in the annual/five-year plans and development partners shall be apprised of this accordingly.

6.3 Increasing allocation for addition of various facilities and building infrastructure at tourist centres

Provision has to be made for special allocation in the annual/five-year plans for the coordinated development of physical infrastructures by giving priority to development of roads and other communication systems to tourist attractions of the country, installation of telephone lines, linking of sewerage and gas lines, etc. Particularly, road communication with religious and archaeological sites, such as Paharpur, Sona Masjid, Kantaji's Temple in the northern part of the country will be improved.

6.4 Things of attraction for foreign tourists

Natural, historical and religious attractions of Bangladesh will be nicely projected to the foreign tourists. Presentation of our own culture and way of life will be given precedence. But at the same time some facilities for modern recreation may be provided in a limited way. Some special areas/places/sites or islands may be earmarked and developed for foreigners only.

6.5 Investment of local and foreign capital in the private sector

Necessary initiatives will be taken by the Ministry of Foreign Affairs, Economic Relations Division and other concerned Ministries for attracting local and foreign investment in order to create various tourist facilities of international standard with a view to developing the tourism industry. The incentives offered to investors in other industries will also be offered to those of the tourism industry. Tourism projects earning foreign exchange will be given the facilities that are given to export-oriented industries. In order to encourage private investment in the tourism sector, loans, tax holidays, payment of taxes at rebated rates and allotment of land at reduced price in special cases, etc., may be considered. Creation of tourist facilities may be undertaken jointly with the private sector and these may then gradually be handed over fully to the private sector.

6.6 Providing facilities to local tourists

Necessary steps will be taken to motivate local tourists to visit places in the country and to this end the service-establishments that are built for development of tourism would be operated in a manner to generate incomes barely enough for keeping them going. Through these steps the investment area will expand, thereby people of the mid-income group and even those of the low-income one will be accorded the opportunities for leisure and recreation. For the purpose, it is necessary to build additional accommodation and other facilities, specially at sea-resorts, places of natural attraction and religious and archaeological sites in order to create attractions of youth, religious and cultural tourism. In this behalf the following steps shall be taken :

- 6.6.1 Arrangements for bank loans at a reduced rate of interest applicable to this industry will be made for creating cheaper accommodation facilities at the main religious and archaeological sites.
- 6.6.2 Connection of telephone, telex and fax facilities may be given on a priority basis to those registered travel agencies and tour operators who will organise package tours for local tourists. Moreover, system of awarding prizes to such travel agents and tour operators annually may also be introduced.
- 6.6.3 Departments/Organisations concerned will have to take up projects to develop road communication facilities to places of religious and cultural importance on priority basis.
- 6.6.4 In order to encourage youth tourism at the local level, permission will be given for the use of Government Dak-bungalows, rest-houses, etc., to students of schools, colleges and universities. Local administration will coordinate such matters.
- 6.6.5 A selected number of the government and semi-government rest-houses/ Dak-bungalows situated at different places of the country will by phases be transformed into economy-hotels and services of these establishments may be improved having them operated by private management.

7.0 Restoration and maintenance of archaeological and historical sites

Steps will have to be taken to attract local and foreign tourists through development and maintenance of historical, archaeological and religious sites situated in different parts of Bangladesh. Steps will also be taken to attract tourists, especially from the Far East, by proper conservation of archaeological sites related to Buddhist culture and civilization and providing standard facilities at these places.

8.0 Conservation of wildlife

A masterplan for the development of tourist attractions in the Sunderbans will be taken up on a priority basis providing for wildlife conservation, creation of a sanctuary and "Safari Tours" in order to attract foreign and local tourists. Other facilities including "Tree-top lodges" will be developed in the Sunderbans.

9.0 The sea-beach of Cox's Bazar

Appropriate steps will be taken by all ministries concerned for implementation of the plan approved by the government for the development of tourism industry in Cox's Bazar area. Additions and/or alterations to this plan may be made keeping in view the needs and demands.

10.0 Kuakata and the sea-beaches of Southern Bangladesh

Projects will be prepared for the development of Kuakata of Patuakhali district and the sea-beaches of Southern Bangladesh after carrying out necessary surveys and steps will be taken to provide required facilities.

11.0 Earmarking and development of special areas/places/sites and islands for foreign tourists

Special areas and islands may be earmarked for the creation of modern amenities only for foreign tourists. The private sector may take a major role in this matter while the government sector may participate in building the infrastructure and ancillary matters.

12.0 Facilitating travel by river for the tourists (Riverine Tourism)

The vast waterways of riverine Bangladesh, as the image of ways of life of its people are one of the attractions to foreigners. But there are no standard and regular water transport for safe travel through the waterways. In order to develop this attraction, a multi-dimensional development plan will be prepared and efforts will have to be made to attract foreign tourists by planning and marketing package tours jointly with neighbouring countries because the vast waterways of riverine Bangladesh are of so different and unique a nature in the context of the whole sub-continent.

13.0 Games and Sports

For increasing incomes in foreign exchange more competitions and tournaments of international games and sports at the regional level will have to be held every year in the country. Particularly, assistance of the SAARC Forum will be sought for holding football and cricket matches and competitions of other popular games and sports.

14.0 Simplification of Frontier Formalities for the Arrival and Departure of Foreign Tourists

After reviewing the regulations .g. the .visa policy for the arrival and departure of foreign tourists to and from Bangladesh and visa policy in force in neighbouring countries, these regulations will have to be recast.

15.0 Marketing and Publicity

There is virtually no marketing and publicity of Bangladesh tourism in tourist markets abroad. But publicity at the international level is absolutely necessary for this competitive industry. The following steps will be taken in this regard :

- (1) Allocation will be made in the revenue budget in favour of Ministry of Civil Aviation and Tourism for publicity on tourism at the local and international levels. As because this is a governmental responsibility and so this allocation will be made to Bangladesh Parjatan Corporation as grant.
- (2) Leaflets, posters, brochures containing information on travels, transportation and accommodation in Bangladesh will be distributed through all foreign missions in Dhaka, foreign airlines and Bangladesh missions abroad.
- (3) Bangladesh Parjatan Corporation, Sonargaon Hotel, Sheraton Hotel, Association of Travel Agents of Bangladesh and other privately owned concerned organisations will jointly participate in international tourism fairs in order to bring package tours and brighten the image of Bangladesh, and necessary foreign currency will be allocated every year for such participation.
- (4) Bangladesh missions abroad are not directly involved in tourism related activities in their respective areas. The missions will contact all concerned for tourism related marketing activities and carry out the responsibility of market-surveys. Ministry of Civil Aviation and Tourism will offer, necessary advice concerning matters related to tourism through the Ministry of Foreign Affairs.
- (5) Bangladesh Parjatan Corporation will establish Tourist Offices jointly with Biman at places of international tourist markets where Bangladesh Biman has its office. At places where there is no Biman office Tourist Offices may be set up after carrying out necessary surveys and studies.

16.0 Evaluation of various information related to tourism

A management information system will have to be developed within the Ministry of Civil Aviation and Tourism for determining future action plans after collecting and reviewing of results of activities in this field.

17.0 A "Monitoring and Evaluation Cell" will have to be established within the Ministry of Civil Aviation and Tourism in order to review and evaluate growth and progress of the industry.

18.0 Civil Aviation Rules

At present no Civil Aviation Policy is being followed in Bangladesh. Steps will have to be taken to allow landing rights to more foreign airlines through pursuit of a civil aviation policy keeping in view the interests of Bangladesh. As a result numbers of foreign airlines and that of foreign tourists coming to Bangladesh will increase and thereby earnings of foreign exchange will increase too.

19.0 Legal frame work/proper application of rules related to tourism

At present Travel Agency Registration Law and law for Registration and Classification of Hotels and Restaurants are in force. In order to perform a contributory role for raising the standard of these establishments by proper application of laws, the Ministry of Civil Aviation and Tourism will have to be suitably organized.

20.0 Planning and Implementation

Phased out plans will have to be taken up to develop places with rich tourist attractions by dividing them into following areas in accordance with the recommendations of the aforementioned masterplan :

- (1) Dhaka Metropolitan Area and sub-areas (including Mainamati of Comilla) ;
- (2) Chittagong Metropolitan Area and contiguous area ;
- (3) Sonadia Island of Cox's Bazar and nearby off-shore islands ;
- (4) Chittagong Hill Tracts area ;
- (5) Khulna, Mongla and the Sunderbans, Kuakata, Hiron Point ;
- (6) The hilly areas of Sylhet including tea gardens and Madhabpur Lake ,
- (7) North Bengal Area (Paharpur, Mahasthangarh, the Temple of Kantaji and Ramsagar Dighi of Dinajpur, etc.)

21.1 Formation of National Tourism Council

A multi-dimensional industry as tourism is its developmental activities at the tourist spots and centres will involve programmes of work of various Ministries and therefore this industry will have to be developed by overcoming governmental dilatory processes through effective coordination at the highest level. With that end in view a National Tourism Council is formed. Its structure and scope of activities will be as under :

(A) Structure :

(1) Prime Minister	Chairman
(2) Minister, Ministry of Finance	Member
(3) Minister, Ministry of Local Govt. Rural Development and Cooperatives	„
(4) Minister, Ministry of Home Affairs	„
(5) Minister, Ministry of Communications	„
(6) Minister, Ministry of Shipping	„
(7) Minister, Ministry of Environment and Forest.	„
(8) Minister, Ministry of Education	„
(9) Minister, Ministry of Information	„
(10) Minister, Ministry of Industries	„
(11) Minister, Ministry of Health	„
(12) Minister, Ministry of Planning	„
(13) Minister/State Minister Ministry of Civil Aviation & Tourism.	„
(14) Secretary, Ministry of Civil Aviation and Tourism.	Member-Secretary.

(B) Scope of Activities :

- (1) To approve, in principle, all national and regional plans related to tourism ;
- (2) To coordinate publicity and marketing at national and international levels for uplifting the image of Bangladesh abroad ;
- (3) To take decisions in principle, to improve communication system for travelling to important tourist sites ;
- (4) To take decisions in principle, for the application of laws related to tourism and other administrative measures ;
- (5) To take steps to give financial facilities to the private sector ;
- (6) To review and approve, where appropriate, the recommendations of Tourism Advisory Committee ; and
- (7) Miscellaneous matters,

(C) Meeting of National Tourism Council will be held at least once in a period of not over six months.

(D) Decisions of the meeting shall be obligatory and all ministries concerned shall implement the same.

21. 2 In order to implement the Tourism Policy an Inter-ministerial Co-ordination and Implementation Committee will be formed as under :

- | | |
|--|-------------------|
| (1) Secretary
Ministry of Civil Aviation & Tourism | Convenor |
| (2) Secretary
Finance Division | Member |
| (3) Secretary
Ministry of Home Affairs | " |
| (4) Secretary
Ministry of Industries | " |
| (5) Chairman
National Board of Revenue | " |
| (6) Secretary
Ministry of Shipping | " |
| (7) Secretary
Ministry of Environment and Forest | " |
| (8) Member (Physical Infrastructure)
Planning Commission | " |
| (9) Secretary
Ministry of Cultural Affairs | " |
| (10) Managing Director
Bangladesh Biman Corporation | " |
| (11) Chairman
Bangladesh Parjatan Corporation | " |
| (12) Joint Secretary
Ministry of Civil Aviation and Tourism | Member-Secretary. |

21. 3 Arrangements of recreation facilities for people will have to be made by assigning specific duties and responsibilities to City Corporations of Dhaka, Chittagong, Rajshahi and Khulna for conservation and development of local tourism resources at the divisional level. These duties will gradually have to be expanded to local government institutions.

22.0 Tourism Advisory Committee,

Private sector entrepreneurship is essential for the development of tourism industry. A Tourism Advisory Committee was constituted in 1977 under the Chairmanship of the Minister for Civil Aviation and Tourism, in order to resolve problems in this sector through review from time to time. Through the activities of this committee the efforts for making the programmes of concerned government and autonomous organisations more people-oriented and of international standard shall continue.

23.0 Reorganisation of the scope of activities of Bangladesh Parjatan Corporation

The developmental and commercial programmes of Bangladesh Parjatan Corporation will have to be reorganised to build it as an auxiliary and complementary organization of the private sector in conformity with market economy pursued by the government.

24.0 Creation of Professional Manpower

Professional manpower is required for the development of service-oriented tourism industry. In order to create this manpower it is necessary to arrange regular training at different levels, application of recruitment rules in respect of employment and provide other incentives. With this end in view, the Hotel & Tourism Training Institute of Bangladesh Parjatan Corporation will have to be expanded and its activities will have to be conducted with professional efficiency.

25.0 Strategies for Tourism Policy

- 25.1 In order to make tourism industry popular, the socio-economic values of this industry will have to be upheld to the people and consciousness regarding this industry will be created by publicity through radio, television and the press.
- 25.2 Capital will be withdrawn by phases from commercial organisations related to tourism held by the government sector in the tourism centres of the country and steps will be taken to hand them over to the private sector.
- 25.3 Government allocation may be increased for publicity and promotion of tourism industry at the national and international levels through Bangladesh Parjatan Corporation so that it can play a more vital role.
- 25.4 In order to encourage the private sector to invest in tourism industry, service-oriented organisations related to hotel and tourism have been indentified as an industrial sector. For fostering this industry, capital investment at concessional interest rate and other facilities such as water, gas and electricity connections may be provided.
- 25.5 In order to make the private sector intersted in investing in tourism industry, government land may be leased on long term basis to establish business organisations against their approved projects.
- 25.6 With a view to import air-conditioned tourist coaches and watercrafts suitable for 15 to 20 passengers for use by the tourists, under current rules and regulations, permission may be given for the import of such vehicles by paying import taxes at easy instalments as may be fixed by the National Board of Revenue, if necessary. All air-conditioned vehicles and water vessels imported under this arrangement will not be handed over to others and must be used only for tourists.
- 25.7 Special tourist areas will be established only for foreign tourists. In order to provide accomodation, catering, games and sports, dance and music to the foreign tourists at these designated areas, permission for required importation will be given. In these special areas the tourists will have to do all transaction in foreign currencies. Kuakata area of Patuakhali and Sonadia Island of Cox's Bazar may be designated as such special areas for tourists.
- 25.8 Due importance will have to be given to the development of tourism industry in the annual/five-year plans. At such tourist centres where the private sector is not eager to develop facilities, having developed said facilities centering round the core-projects public capital may be withdrawn gradually.

